

Twitter 利用を中心とする震災時の情報行動と通信不安  
— 関東 Twitter 利用者ウェブ調査

Information Behavior and Communication Anxiety on Twitter  
after the Great East Japan Earthquake  
-Web Survey of Twitter User in Kanto Region-

山本太郎	YAMAMOTO, Taro	橋元良明	HASHIMOTO, Yoshiaki
中村 功	NAKAMURA, Isao	関谷直也	SEKIYA, Naoya
小笠原盛浩	OGASAHARA, Morihiro	千葉直子	CHIBA, Naoko
関 良明	SEKI, Yoshiaki	高橋克巳	TAKAHASHI, Katsumi

目次

0. 調査の目的と方法	NTT
0.1 調査の目的	
0.2 調査の方法	
1. 地震以前からのツイッター利用状況	
1.1 ツイッター平均利用回数(問 1)	橋元良明
1.2 ツイッター利用開始時期(問 2)	橋元良明
1.3 呟き内容(問 11)	NTT
2. 地震がもたらしたツイッター利用状況の変化	
2.1 ツイッター利用回数の増減(問 2SQ)	橋元良明
2.2 ツイッター利用継続意向(問 3)	橋元良明
2.3 地震直後のツイッター利用目的(問 5)	NTT
2.4 フォロー相手の変化と理由(問 7~9, 9SQ)	関谷直也
2.5 役立ったツイートをした発言者(問 13)	小笠原盛浩
2.6 災害後の未確認情報への接触と対応(問 17, 17SQ1, 18)	小笠原盛浩
3. 地震をめぐる安心と不安	
3.1 利用可能だと安心するネットコミュニケーション手段・ネットサービス(問 4, 4SQ)	関谷直也
3.2 ツイッター利用がもたらす安心(問 6)	NTT

3.3 不安の眩き・それに対する反応・それによる安心(問 12, 12SQ1~3)	NTT
3.4 ハッシュタグに関する不安(問 14)	NTT
3.5 リツイート基準とリツイートに関する不安(問 15, 16)	NTT
4. 震災をめぐるメディア・報道の評価	
4.1 ツイートによる他者への信頼度の変化(問 10)	NTT
4.2 災害関連情報を取得できたメディア(問 19)	中村 功
4.3 災害関連情報で役に立ったメディア(問 20)	中村 功
4.4 原発関連のメディア情報への理解(問 21)	中村 功
4.5 原発関連のメディア情報への信頼度(問 22)	NTT
5. 調査票と単純集計	

---

山本太郎	日本電信電話株式会社 NTT 情報流通プラットフォーム研究所
橋元良明	東京大学大学院情報学環
中村 功	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科
関谷直也	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科
小笠原盛浩	関西大学社会学部
千葉直子	日本電信電話株式会社 NTT 情報流通プラットフォーム研究所
関 良明	日本電信電話株式会社 NTT 情報流通プラットフォーム研究所
高橋克巳	日本電信電話株式会社 NTT 情報流通プラットフォーム研究所

本稿は、東京大学、東洋大学、関西大学、日本電信電話株式会社の4者による共同研究「ネットワーク利用における安心に関する研究」(平成23年10月から平成24年2月)の成果の一部である。

## 0. 調査の目的と方法

### 0.1 調査の目的

2011年3月11日を起点として、東日本大震災が文字通り日本を震撼させた。それは物質的被害だけではなく、多くの人の心に大きな傷跡をつけた。比較的損害が軽微であった関東においても、少なからぬ人々が物理的・精神的に分断され、不安を抱え込むことを余儀なくされた。そこで、人々を繋いだモノのひとつがソーシャルメディアであった。

多くの情報交換や励まし合いがインターネットを介して行われ、それはソーシャルメディアの再評価に繋がった。その代表例のひとつが、本調査で対象としたTwitterである。

震災時のTwitter利用に関する調査は既に多数行われているが、安心や不安に強く焦点を当てた既存調査は存在しないことから、関東在住のTwitter利用者を対象とした本調査を実施した。

東京大学大学院情報学環・東洋大学社会学部・関西大学社会学部とNTT情報流通プラットフォーム研究所による研究グループは、人々がインターネット利用に対して抱く「安心」と「不安」の意識について研究に取り組んできた。2011年度は、東北地方太平洋沖地震の発生に伴い、大災害時だからこそ強く印象づけられた不安と、それが解消されることにより浮き彫りになったと思われる安心について、整理と分析を行うため、インターネット利用を1つの軸として、複数の調査を実施した。調査として(1)関東在住者を対象としたウェブアンケート調査、(2)被災地に家族・親族がいる人を対象としたウェブアンケート調査、(3)ツイッター利用者を中心としたウェブアンケート調査、(4)仙台・盛岡在住者を対象とした訪問留置調査の4本を実施したが、本稿は(3)の調査結果についてまとめたものである。

### 0.2 調査の方法

本調査の実施方法は以下のとおりである。

(1)調査地域：東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県

(2)調査機関：(株)NTT データスミス マーケティングリサーチ事業部(現・ジーエフケー・カスタムリサーチ・ジャパン(株))

(3)調査期間：2011年9月16日～9月26日

(4)調査対象者：15歳以上59歳以下の男女で、2011年3月11日の地震発生前からTwitterを利用または地震発生後から2011年3月20日までにTwitterを利用開始した者

(5) 標本数：200 標本

(6) 抽出方法：性・年齢層別割当法

男女 10 セル毎、15 歳～19 歳男女各 12 人、20 歳～29 歳・30 歳～39 歳・40 歳～49 歳・50 歳～59 歳男女各 22 人に達するまで回収を行い、合計 200 標本を収集した。

(7) 調査方法：ウェブアンケート

(8) 主な質問項目

- ・ 地震以前からのツイッター利用状況
  - Twitter 平均利用回数／Twitter 利用開始時期／地震前の眩き内容
- ・ 地震後のツイッター利用状況
  - Twitter 利用回数の増減／Twitter 利用継続意向／地震直後の Twitter 利用目的
  - 地震前・後のフォロー相手／地震後のフォロー解除者と解除理由
  - 役立ったツイートをした発言者
  - 災害後の未確認情報(いわゆる「デマ」)への接触と対応
- ・ Twitter を始めとするインターネットの安心と不安
  - 利用可能な状態だと安心するネットコミュニケーション手段やネットサービス
  - Twitter 利用がもたらす安心
  - 不安の眩き／それに対する反応と安心
  - ハッシュタグに関する不安
  - リツイート基準とリツイートに関する不安
- ・ 震災をめぐるメディア・報道の評価
  - ツイートによる他者への信頼度の変化
  - 災害関連情報を取得できたメディア／災害関連情報で役に立ったメディア
  - 原発関連のメディア情報への理解と信頼度

※これ以降において、「Twitter」は、質問文の表記に合わせ、「ツイッター」と表記するものとする。

## 1. 地震以前からのツイッター利用状況

### 1.1 ツイッター平均利用回数(問1)

表 1.1.1 ツイッター平均利用回数(単位：回)

	全体平均	男女別		未婚・既婚別		年代別				
		男性	女性 <sub>n.s.</sub>	未婚	既婚	10代	20代	30代	40代	50代
ツイートを読む	8.7	12.3	5.2	12.2	3.9*	9.0	17.2	9.8	3.6	4.2 <sub>ns</sub>
ツイートを書く	4.3	4.5	4.1	6.2	1.5**	17.2 <sub>a</sub>	5.2 <sub>b</sub>	2.2 <sub>b</sub>	1.4 <sub>b</sub>	1.4 <sub>b</sub>
リツイートする	1.4	2.0	0.9	1.7	1.0 <sub>n.s.</sub>	2.0	2.3	1.0	0.8	1.4 <sub>ns</sub>

男女別、未婚(離別を含む)・既婚別は T 検定結果。年代別は分散分析の結果。いずれも\*：p<.05、\*\*：p<.01、\*\*\*：p<.001の有意水準。nsは危険率5%未満の水準で有意差がないことを示す。また、数値右のa, b, cは、Turkeyの多重範囲検定で、同記号間ではp<.05の有意差がないことを示す。

表 1.1.1 はツイッターの平均利用回数を、「他人のツイートを読む」「自分でツイートを書く」「リツイートする」の3項目に分け、全体平均(N=200)、男女別、未婚(離別を含む)既婚別、年代別に見たものである。

表に示されるとおり、「ツイートを読む」が全体平均で8.7回、男女別では有意差はないが男性の方が多い傾向が見られた。未婚既婚別では、未婚者が既婚者より多かった。年代別では20代が多い傾向が見られたが、危険率5%未満の水準では有意差がなかった。なお、「他人のツイートを読む」の間に対して1000回以上の回答が2人いたが(1000回と5000回)、分布から外れ値と見なされるため、平均の算出から除外した。

「ツイートを書く」については、全体で4.3回、男女別には有意差がなかったが、未婚者の方が既婚者より多い傾向が見られた。未婚者が多いことは、年齢が低く、男性が多いこととも関連していると推察される。年代別では10代が多かった。

「リツイートする」については、全体で1.4回、男女別、未婚既婚別、年代別については有意差が見られなかった。

### 1.2 ツイッター利用開始時期(問2)

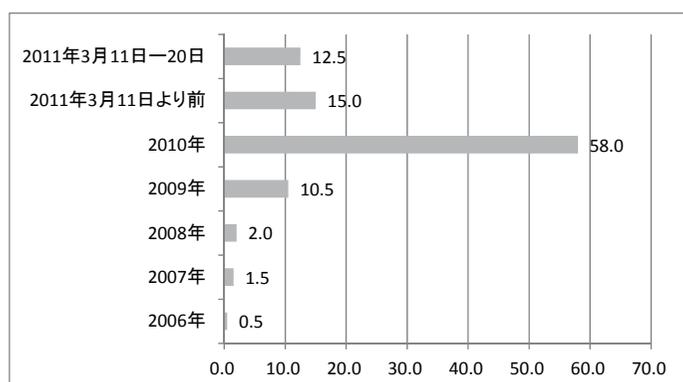


図 1.2.1 ツイッター開始時期(年)(数値は%)

図 1.2.1 はツイッターを開始した時期の分布をみたものである。図に示されるとおり、58%が2010年に集中している。2011年は全体の37.5%いるが、うち12.5%が震災後に開

始している。

表 1.2.1 開始してからの月数(単位:月数)

全体平均	男性	女性	n.s.	未婚	既婚	n.s.	10代	20代	30代	40代	50代	n.s.
9.5	10.6	8.3		9.9	8.8		10.9	8.6	10.8	8.6	8.1	

男女別、未婚(離別を含む)・既婚別は T 検定結果。年代別は分散分析の結果。いずれも\* : p<.05、\*\* : p<.01、\*\*\* : p<.001 の有意水準。ns は危険率 5%未満の水準で有意差がないことを示す。

表 1.2.1 はツイッターを開始してから 2011 年 3 月まで(3 月含む)の経過月数を示したものである。平均が 9.5 ヶ月であり、男女別、未婚既婚別、年代別で見て、いずれも有意差はなかった。

### 1.3 呟き内容(問 11)

地震発生前にツイッターでどのようなことをつぶやいていたかを、選択肢を提示したうえで、複数回答可で聞いた結果を図 1.3.1 に示す。「自分の近況」や「その時々自分が感じたこと」の割合が比較的多く、自分ではつぶやいていない人も 1/4 以上存在していた。

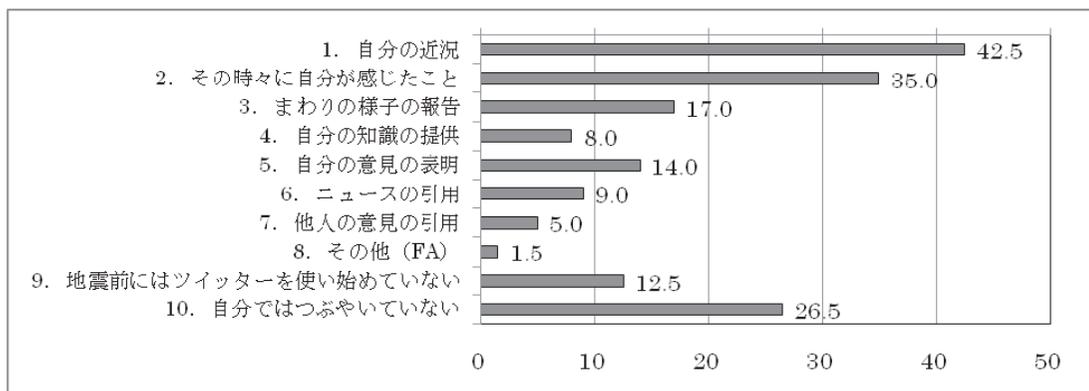


図 1.3.1 地震発生前のつぶやき内容(複数回答可)[単位: %] (n=200)

これらを性別・年代・1人暮らしか否か・配偶者の有無でクロス集計を取り、 $\chi^2$  検定を行った結果を表 1.3.1 に示す。「自分の知識の提供」は男性の方が多く、「自分の近況」や「他人の意見の引用」は、若い世代の人ほど多い傾向が見られた。「自分の意見の表明」は 30 代で非常に少ない傾向が見られた。「自分の近況」と「ニュースの引用」は、1人暮らしで配偶者のいない人に多く、「まわりの様子の報告」は配偶者のいない人に多い傾向が見られた。また、「自分ではつぶやいていない」という人は 1人暮らしでない人に多い傾向があった。

表 1.3.1 地震発生後のつぶやき内容（性別・年代別）[単位：%]

	男性	女性		10代	20代	30代	40代	50代		1人暮らし	同居		配偶者無	配偶者有	
1. 自分の近況	40.0	45.0	n.s.	66.7	54.5	36.4	29.5	36.4	*	57.4	37.9	*	51.7	29.3	**
2. その時々自分が感じたこと	34.0	36.0	n.s.	58.3	34.1	25.0	34.1	34.1	n.s.	40.4	33.3	n.s.	38.1	30.5	n.s.
3. まわりの様子の報告	17.0	17.0	n.s.	33.3	20.5	9.1	18.2	11.4	n.s.	19.1	16.3	n.s.	22.9	8.5	**
4. 自分の知識の提供	14.0	2.0	**	12.5	13.6	2.3	6.8	6.8	n.s.	10.6	7.2	n.s.	10.2	4.9	n.s.
5. 自分の意見の表明	14.0	14.0	n.s.	29.2	15.9	2.3	9.1	20.5	*	21.3	11.8	n.s.	16.9	9.8	n.s.
6. ニュースの引用	11.0	7.0	n.s.	12.5	15.9	6.8	4.5	6.8	n.s.	17.0	6.5	*	12.7	3.7	*
7. 他人の意見の引用	5.0	5.0	n.s.	12.5	13.6	0.0	2.3	0.0	**	8.5	3.9	n.s.	7.6	1.2	n.s.
8. その他(FA)	0.0	3.0	n.s.	0.0	0.0	2.3	4.5	0.0	n.s.	2.1	1.3	n.s.	0.8	2.4	n.s.
9. 地震前にはツイッターを使い始めていない	8.0	17.0	n.s.	16.7	13.6	15.9	9.1	9.1	n.s.	8.4	13.7	n.s.	11.9	13.4	n.s.
10. 自分ではつぶやいていない	33.0	20.0	n.s.	12.5	22.7	25.0	38.6	27.3	n.s.	10.6	31.4	**	21.2	34.1	n.s.

## 2. 地震がもたらしたツイッター利用状況の変化

### 2.1 ツイッター利用回数の増減(問 2SQ)

表 2.1.1 ツイッター利用回数の増減(%)

	全体	男性	女性**
震災前と変わらない	62.9	73.9	50.6
震災前より増えた	32.0	20.7	44.6
震災前より減った	5.1	5.4	4.8

表は縦に見て合計が 100%

$\chi^2$  自乗検定結果で\* :  $p < .05$ 、\*\* :  $p < .01$ 、\*\*\* :  $p < .001$  の有意水準。

表 2.1.1 は「地震発生から 1 週間のあいだ、ツイッターを利用する回数は変わりましたか」という問に対する回答の比率分布である(各縦列の合計が 100%)。

全体の 62.9% が「変わらない」と答えているが、32% は「前より増えた」と答えている。

男女別に見れば、女性の方が「前より増えた」と答えた人の比率が高い。

なお、未婚既婚別、年齢別では有意差は見られなかった。

### 2.2 ツイッター利用継続意向(問 3)

表 2.2.1 ツイッター利用継続意向(全体平均、%)

当分の間利用し続ける	80.5
そろそろ利用をやめようと思っている	7.0
わからない	12.5

表 2.2.1 は「あなたは今後もツイッターを利用しつづけようと思っていますか」という質問に対する回答比率の分布を示したものである。

全体の 80.5% が「当分の間利用し続ける」と答えており、「やめようと思う」は 7% に過ぎない。

なお、この質問に関し、男女別、未婚既婚別、年代別では有意差は見られなかった。

### 2.3 地震直後のツイッター利用目的(問 5)

地震発生から 1 週間の間にツイッターをどのような目的で利用したかを、選択肢を提示したうえで、複数回答可で聞いた結果を図 2.3.1 に示す。地震直後ということで、「友人や家族の安否確認」、「生活情報の取得」、「発生した地震や津波などの情報の取得」、「計画停電や電力供給に関する情報の取得」がいずれも 4 割前後で上位であった。

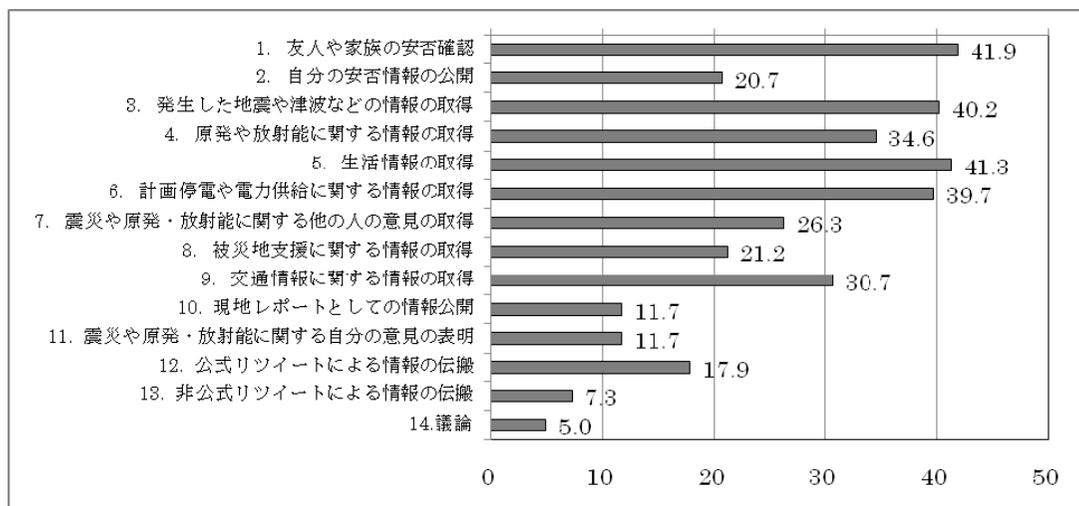


図 2.3.1 地震発生後の利用目的（複数回答可）[単位：％] (n=179, NA=21)

これらを性別・年代・1人暮らしか否か・配偶者の有無でクロス集計を取り、 $\chi^2$ 検定を行った結果、性別と1人暮らしについては5%水準で有意な差がみられなかったため、それ以外の結果を表 2.3.1 に示す。年代別では、「友人や家族の安否確認」と「議論」については、若い世代ほど多い傾向が見られた。配偶者の有無では、「自分の安否情報の公開」が独身者の方が多かった。

表 2.3.1 地震発生後の利用目的（年代別）[単位：％]

	10代	20代	30代	40代	50代		配偶者無 (n=110)	配偶者有 (n=69)	
1. 友人や家族の安否確認	54.5	53.5	43.6	40.5	21.1	*	44.5	37.7	n.s.
2. 自分の安否情報の公開	22.7	30.2	23.1	21.6	5.3	n.s.	26.4	11.6	*
3. 発生した地震や津波などの情報の取得	50.0	46.5	43.6	32.4	31.6	n.s.	43.6	34.8	n.s.
4. 原発や放射能に関する情報の取得	40.9	44.2	28.2	21.6	39.5	n.s.	35.5	33.3	n.s.
5. 生活情報の取得	45.5	53.5	35.9	37.8	34.2	n.s.	43.6	37.7	n.s.
6. 計画停電や電力供給に関する情報の取得	40.9	53.5	43.6	29.7	28.9	n.s.	39.1	40.6	n.s.
7. 震災や原発・放射能に関する他の人の意見の取得	31.8	32.6	25.6	16.2	26.3	n.s.	25.5	27.5	n.s.
8. 被災地支援に関する情報の取得	27.3	18.6	17.9	13.5	31.6	n.s.	20.9	21.7	n.s.
9. 交通情報に関する情報の取得	22.7	27.9	33.3	27.0	39.5	n.s.	30.0	31.9	n.s.
10. 現地レポートとしての情報公開	9.1	11.6	17.9	10.8	7.9	n.s.	12.7	10.1	n.s.
11. 震災や原発・放射能に関する自分の意見の表明	22.7	11.6	7.7	8.1	13.2	n.s.	10.0	14.5	n.s.
12. 公式リツイートによる情報の伝搬	27.3	20.9	12.8	13.5	18.4	n.s.	17.3	18.8	n.s.
13. 非公式リツイートによる情報の伝搬	13.6	7.0	5.1	10.8	2.6	n.s.	6.4	8.7	n.s.
14. 議論	18.2	7.0	2.6	0.0	2.6	*	7.3	1.4	n.s.

## 2.4 フォロー相手の変化と理由(問 7~9, 9SQ)

地震発生前にフォローしていた相手としては、最も多いのが「友人・知人」49.5%、「タレント」28.5%、「その他有名人」26.5%、「企業」25.5%、「その他一般の人」23.5%、「公的機関」20%、「報道機関」18.5%と続く。身近な人、またタレントや有名人という

自分が興味を持っている個人のつぶやきを読むために利用されているというメディアであった（図 2.4.1）。

地震後、新たに誰かをフォローしたという人は 59.0%いた（図 2.4.2）。その内訳としては「ツイッターを使うようになった友人や家族」39.0%や「タレント」22.9%という従来のパターンと、「公的機関」31.0%、「ためになると思われる意見を出してくれる人」26.3%という新たなパターンであった（図 2.4.3）。

自分が興味を持っているある個人のつぶやきを読むために利用されているというメディアという使われ方は変わらないが、公的な情報や有用な情報を得るための、情報収集を行うためのメディアという新たな側面がでてきたことがわかる。

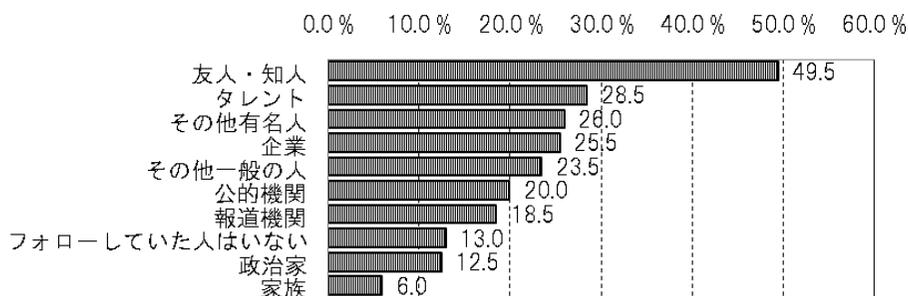


図 2.4.1 地震発生前にフォローしていた相手

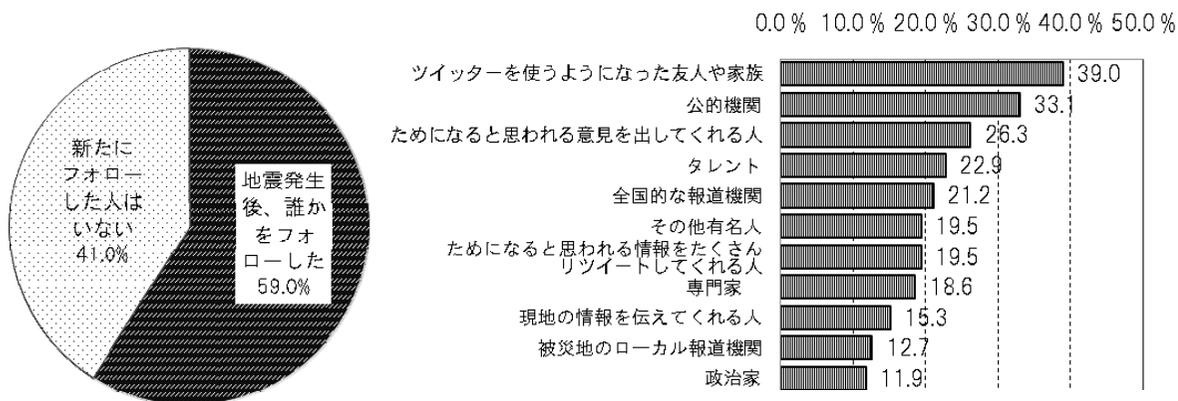


図 2.4.2 地震発生後新たに誰かをフォローしたかどうか (N=200)

図 2.4.3 地震発生後にフォローを解除した相手 (N=118)

新たにフォローする人がいる一方で、20.0%の人は地震後にフォローを解除した相手がいると答えている（図 2.4.4）。「タレント」32.5%、「その他一般の人」30.0%、「企

業」22.5%と続く（図 2.4.5）。

フォローを解除した相手のパターンは二つに分けられる。第一に、「ツイートが多すぎるから」45.0%、「リツイートが多すぎるから」22.5%と、震災後に普段以上にツイート・リツイートをを行ったためにフォローを解除されたというパターン、第二に「納得できない意見をツイートするから」25.0%、「不快なリツイートが多いから」20.0%、「正しく伝えていないから」17.5%、「不快なツイートをやるから」15.0%と、納得がいかない、不快なツイート・リツイートをを行ったためにフォローを解除されたというパターンである（図 2.4.6）。

前者は、震災後に情報発信行動を人が困惑するほど行った人がいること、後者は震災後に多くの人がさまざまな考え方を発信したことによって、それまで気にならなかった価値観の相違や意識の相違が意識されるようになったこと、また心理的に不安定になった人がいたことなどを表しているといえよう。



図 2.4.4 地震後フォロー解除の有無 (N=200)

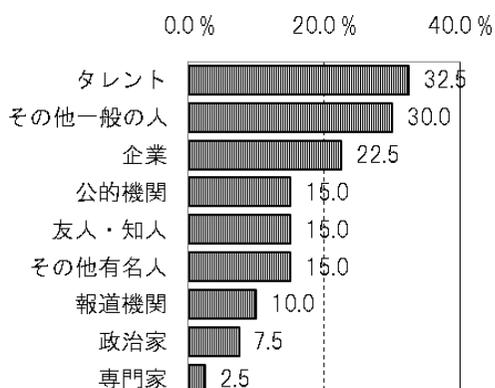


図 2.4.5 地震発生後にフォローを解除した相手 (N=40)

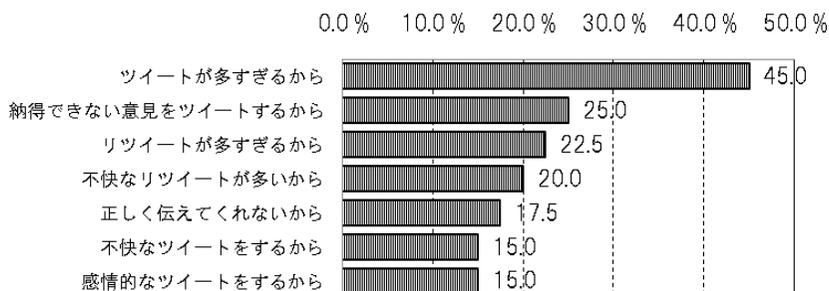


図 2.4.6 地震発生後にフォローを解除した理由 (N=40)

## 2.5 役立ったツイートをした発言者(問 13)

ツイッター調査回答者の中で、地震や津波の情報、原発や放射能に関する情報をツイッターで読んだ人はそれぞれ 22.0%、21.5%であった。調査では、「もっとも役に立ったツイート」を書いた人が誰かという点についても質問しているが、地震・津波情報、原発・放射能情報どちらの場合もまとまった回答数を集めた情報発信者はなく、ほとんどの情報発信者はただ 1 人の回答者によって選択されているだけであった。具体的には、地震・津波情報では「NHK」「ホリエモン」「東京電力」「現地の人」「友人」など、原発・放射能情報では「NHK」「総理官邸」「早野教授」「津田大介」「友人」などが「もっとも役に立ったツイート」の情報発信者として挙げられていた。

## 2.6. 災害後の未確認情報への接触と対応(問 17, 17SQ1, 問 18)

ツイッター調査回答者のうち 77.5%は地震発生から 1 週間の間に何らかの未確認情報(いわゆるデマ)に接触していた。さらに未確認情報に接触した回答者のうち 65.8%は、それらの情報に「明らかに事実ではない」ものがあると認識していた。性別・年齢層別に未確認情報を事実でないと認識していた比率を比較したところ、性別では男性の方が女性よりも 10%水準で有意に事実でないと認識している比率が高いが、年齢層による差は見られなかった(表 2.6.1)。

表 2.6.1 災害後に接した未確認情報を事実でないと認識した比率(単位: %)

全体	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代
65.8	73.9	59.3	80.0	64.7	61.5	62.5	66.7

次に、未確認情報が事実でないと認識したきっかけをたずねた(図 2.6.1)。「接触前に事実ではないという証拠を知っていた」(38.2%)「ツイッター以外の場所で事実ではないという証拠を見つけた」(32.4%)という回答が多いことから、マスメディア等で「このような未確認情報が流れている」とのニュースに接触していたケースが多いのではないかと考えられる。

また、未確認情報に接触した後、その情報を(事実ではないと気づかないまま)ツイッター上で広めてしまった人は、未確認情報に接触した回答者の 5.5%であった。

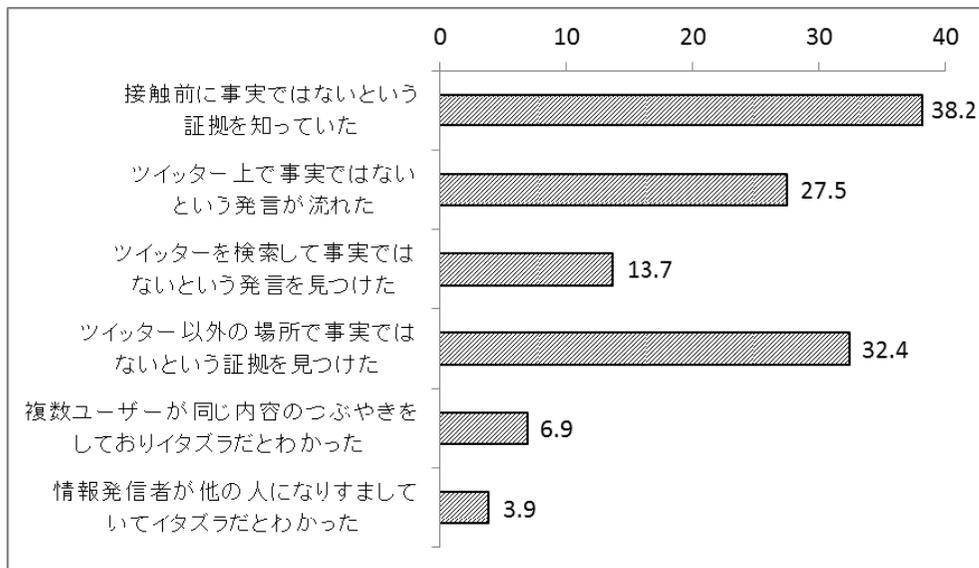


図 2.6.1 災害後に接した未確認情報を事実でないと認識したきっかけ (MA、単位：%)

### 3. 地震をめぐる安心と不安

#### 3.1 利用可能だと安心するネットコミュニケーション手段・ネットサービス(問4 4SQ)

「地震発生後、使いたいときにいつでも使える状態にあると最も安心するもの」は何かについて、コミュニケーションメディアに絞って選択肢を示し、尋ねた。

「携帯電話でのメール」が32.0%、「携帯電話での通話」が23.0%、「携帯電話でのインターネット」15.0%と、携帯電話にまつわるものがまず第一にあげられる。次に、「パソコンでのインターネット」15.5%、「パソコンでのメール」7.0%とパソコンによる連絡手段があげられる。以上を合わせて8割を超えた(図3.1.1)。

また、パソコンでのインターネット、携帯電話でのインターネットと答えた人61名に「インターネットサービスのうち、使いたい時にいつでも使える状態にあると最も安心するもの」について選択肢を示し、尋ねた。「ニュースサイト」が37.7%、ツイッターなどミニブログが37.7%、ミクシィなどSNSが9.8%、電子掲示板が8.2%であった(図3.1.2)。

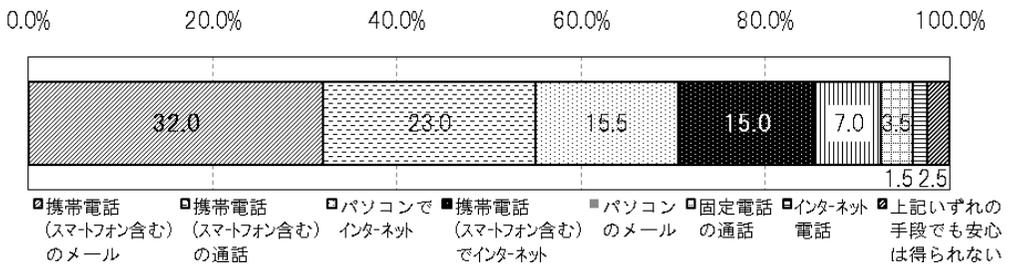


図 3.1.1 地震発生後に使いたいときにいつでも使える状態にあると最も安心するもの

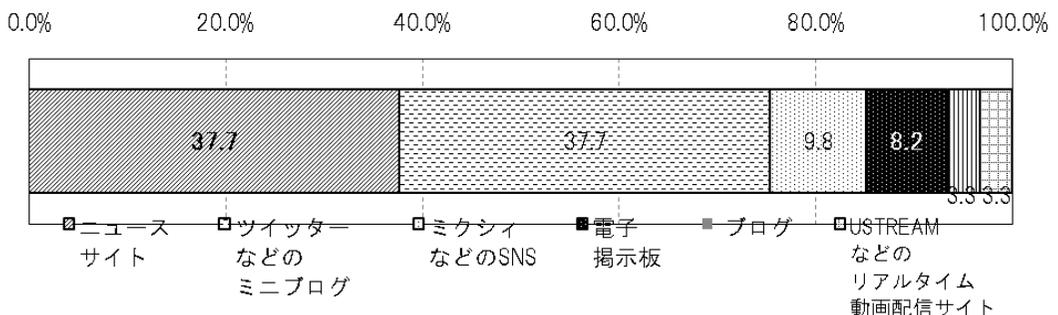


図 3.1.2 インターネットサービスで、使いたい時にいつでも使える状態にあると最も安心するもの  
(図 3.1.1 で、携帯電話でのインターネット、パソコンでのインターネットと答えた人 N=61)

### 3.2 ツイッター利用がもたらす安心(問6)

地震発生から1週間の間、2.3節で挙げたような利用目的で、ツイッターを利用した際の安心について、単独回答設問として訊ねた結果を図3.2.1に示す。

「安心はしなかった」者が22.0%であることから、何らかの安心を享受した者が78.0%存在し、多数の者がツイッターを利用することで、安心感を得ていたことが判明した。

具体的な安心内容の上位は、「必要な情報を取得できたから、安心した」(32.5%)、「友人や家族の安否を確認できたから、安心した」(23.0%)であり、災害時に特有の内容のものが上位であった。

表3.2.1の通り、性別による有意差は、安心はしなかった者は男性の方が多く(調整残差=3.1,  $p<0.01$ )、「必要な情報を取得できたから、安心した」者および「友人や家族の安否を確認できたから、安心した」者は女性の方が多かった(ともに調整残差=2.0,  $p<0.05$ )。

年齢層・配偶者の有無・同居者の有無による有意差は見られなかった。

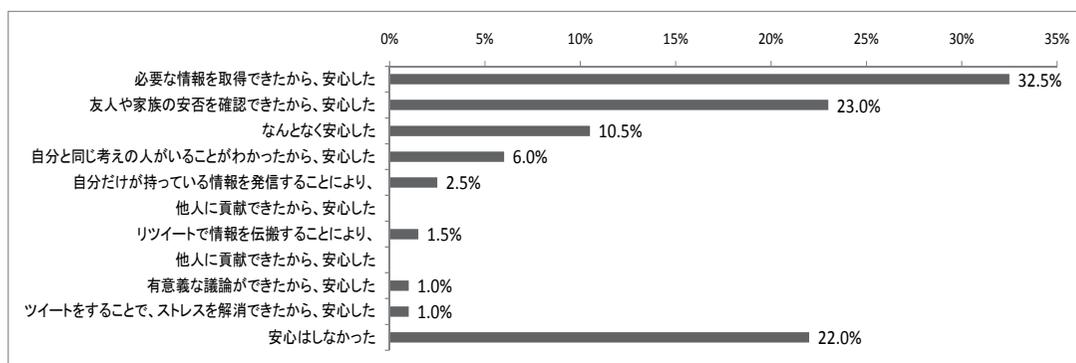


図 3.2.1 ツイッター利用による安心 (N=200)

表 3.2.1 ツイッター利用による安心(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	性別		年齢層					配偶者		同居者			
	男性 (N=100)	女性 (N=100)	10代 (N=24)	20代 (N=44)	30代 (N=44)	40代 (N=44)	50代 (N=44)	なし (N=118)	あり (N=82)	なし (N=47)	あり (N=153)		
必要な情報を取得できたから、安心した	26.0	39.0	33.3	27.3	36.4	36.4	29.5	n.s.	31.4	34.1	n.s.	29.8	33.3
友人や家族の安否を確認できたから、安心した	17.0	29.0	33.3	29.5	25.0	15.9	15.9		25.4	19.5		21.3	23.5
なんとなく安心した	12.0	9.0	16.7	13.6	9.1	6.8	9.1		11.9	8.5		12.8	9.8
自分と同じ考えの人がいることがわかったから、安心した	7.0	5.0	4.2	2.3	2.3	13.6	6.8		5.9	6.1		6.4	5.9
自分だけが持っている情報を発信することにより、他人に貢献できたから、安心した	4.0	1.0	0.0	4.5	0.0	2.3	4.5		2.5	2.4		4.3	2.0
リツイートで情報を伝搬することにより、他人に貢献できたから、安心した	2.0	1.0	0.0	0.0	2.3	2.3	2.3		0.0	3.7		0.0	2.0
有意義な議論ができたから、安心した	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5		0.0	2.4		0.0	1.3
ツイートをすることで、ストレスを解消できたから、安心した	0.0	2.0	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3		0.8	1.2		0.0	1.3
安心はしなかった	31.0	13.0	12.5	20.5	25.0	22.7	25.0		22.0	22.0		25.5	20.9

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \*  $p<0.05$  \*\*  $p<0.01$  \*\*\*  $p<0.001$

### 3.3 不安の眩き・それに対する反応・それによる安心

#### (1) 不安に関する眩き(問 12)

地震発生から1週間の間、ツイッターにおいて、不安に関する眩きを行ったかどうかについて、複数回答可として訊ねた結果を図 3.3.1 に示す。

予想に反して、そのような眩きはしていないと回答した者が、62.5%存在し、6割以上の者が不安に関する眩きはしていないことが判明した。

眩いた不安の内容は、集中しておらず、「電力不足や計画停電に関すること」が1位(17.0%)、「余震や津波が恐ろしいこと」が2位(16.5%)、「原子力発電所や放射能に関すること」が3位(13.0%)であり、筆者が個人的に感じていた「孤立感」は最下位で(2.5%)であった。差し迫った二次被害の不安について、関東では眩かれていたようである。

表 3.3.1 の通り、1位の「電力不足や計画停電に関すること」について、年齢層と同居者の有無において有意差が見られた。20代が最も多く(31.8%)、40代(9.1%)・50代(11.4%)が少なく、また、同居者がいない者の方(27.7%, +13.7%)が不安に関する眩きをしていた。性別や配偶者の有無による有意差は見られなかった。

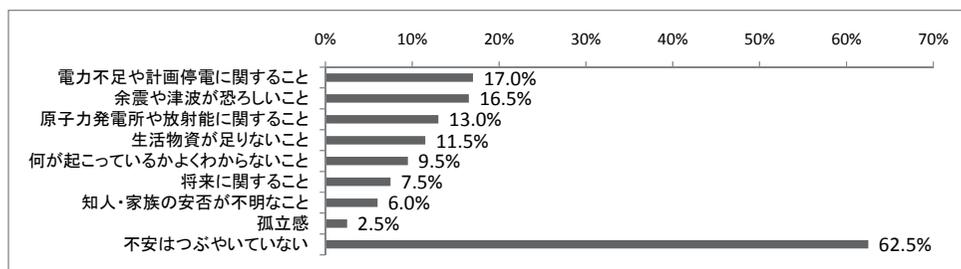


図 3.3.1 不安に関する眩き (N=200)

表 3.3.1 不安に関する眩き(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	性別		年齢層					配偶者		同居者					
	男性 (N=100)	女性 (N=100)	10代 (N=24)	20代 (N=44)	30代 (N=44)	40代 (N=44)	50代 (N=44)	なし (N=118)	あり (N=82)	なし (N=47)	あり (N=153)				
電力不足や計画停電に関すること	18.0	16.0	n.s.	20.8	31.8	13.6	9.1	11.4	*	20.3	12.2	n.s.	27.7	13.7	*
余震や津波が恐ろしいこと	14.0	19.0	n.s.	20.8	27.3	13.6	13.6	9.1	n.s.	16.9	15.9	n.s.	25.5	13.7	n.s.
原子力発電所や放射能に関すること	17.0	9.0	n.s.	12.5	11.4	13.6	6.8	20.5	n.s.	9.3	18.3	n.s.	14.9	12.4	n.s.
生活物資が足りないこと	11.0	12.0	n.s.	8.3	20.5	11.4	11.4	4.5	n.s.	12.7	9.8	n.s.	17.0	9.8	n.s.
何が起きているかわからないこと	6.0	13.0	n.s.	8.3	11.4	6.8	9.1	11.4	n.s.	11.0	7.3	n.s.	12.8	8.5	n.s.
将来に関すること	7.0	8.0	n.s.	8.3	9.1	9.1	6.8	4.5	n.s.	10.2	3.7	n.s.	8.5	7.2	n.s.
知人・家族の安否が不明なこと	5.0	7.0	n.s.	12.5	9.1	2.3	2.3	6.8	n.s.	6.8	4.9	n.s.	6.4	5.9	n.s.
孤立感	1.0	4.0	n.s.	4.2	4.5	0.0	2.3	2.3	n.s.	1.7	3.7	n.s.	4.3	2.0	n.s.
不安はつづやいていない	65.0	60.0	n.s.	62.5	52.3	59.1	72.7	65.9	n.s.	61.0	64.6	n.s.	51.1	66.0	n.s.

表注1 χ<sup>2</sup>乗検定の結果: \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

#### (2) 不安に関する眩きに対する反応(問 12SQ1)

3.3(1)節(前節)において、地震発生から1週間の間、ツイッターにおいて、何らかの不安に関する眩きを行ったと回答した者(N=75)に対し、不安に関する眩きに対して得られた

反応について、複数回答可として訊ねた結果を図 3.3.2 に示す。

「反応はなかった」と回答した者が 36.0%であり、6 割以上の人間が何らかの反応を得られている。晒し者にされた者は 0.0%、否定的な発言をされた者は 5.3%であり、おおむねポジティブな反応を得られたようである。

ポジティブな反応の中では、「家族・友人・知人がなぐさめてくれた」が 1 位 (34.7%) であり、「不安を解消するような情報を提供してもらった」が 2 位 (25.3%) であった。さらに「不安を解消するような意見をもらった」(18.7%)、「見知らぬ人がなぐさめてくれた」(16.0%) といった、善意の第三者からの積極的な支援が存在していたことも明らかになった。

なお、性別・年齢層・配偶者の有無・同居者の有無による有意差は見られなかった(表 3.3.2)。

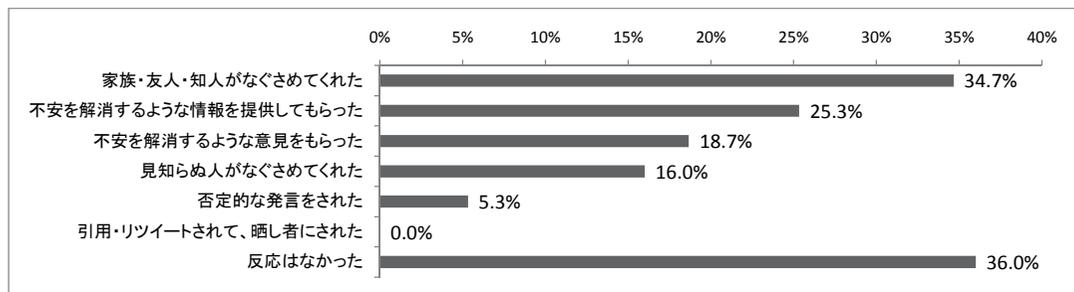


図 3.3.2 不安眩きに対する反応 (N=75)

表 3.3.2 不安眩きに対する反応 (性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	性別		年齢層					配偶者		同居者					
	男性 (N=35)	女性 (N=40)	10代 (N=9)	20代 (N=21)	30代 (N=18)	40代 (N=12)	50代 (N=15)	なし (N=46)	あり (N=29)	なし (N=23)	あり (N=52)				
家族・友人・知人がなぐさめてくれた	28.6	40.0	n.s.	55.6	33.3	27.8	33.3	n.s.	37.0	31.0	n.s.	43.5	30.8	n.s.	
不安を解消するような情報を提供してもらった	28.6	22.5	n.s.	33.3	23.8	22.2	16.7	33.3	n.s.	26.1	24.1	n.s.	17.4	28.8	n.s.
不安を解消するような意見をもらった	22.9	15.0	n.s.	33.3	14.3	27.8	8.3	13.3	n.s.	17.4	20.7	n.s.	13.0	21.2	n.s.
見知らぬ人がなぐさめてくれた	17.1	15.0	n.s.	33.3	9.5	27.8	8.3	6.7	n.s.	15.2	17.2	n.s.	13.0	17.3	n.s.
否定的な発言をされた	5.7	5.0	n.s.	11.1	4.8	11.1	0.0	0.0	n.s.	4.3	6.9	n.s.	4.3	5.8	n.s.
引用・リツイートされて、晒し者にされた	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
反応はなかった	42.9	30.0	n.s.	33.3	42.9	22.2	41.7	40.0	n.s.	39.1	31.0	n.s.	34.8	36.5	n.s.

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \*  $p<0.05$  \*\*  $p<0.01$  \*\*\*  $p<0.001$

### (3) 不安に関する眩きに対する反応を受けての安心 (問 12SQ2~3)

3.3(2)節(前節)において、地震発生から 1 週間の間、ツイッターにおいて、何らかの不安に関する眩きを行い、それに対して何らかの反応を受けた者のうち、「家族・友人・知人がなぐさめてくれた」または「見知らぬ人がなぐさめてくれた」者 (N=36, 図表中では「なぐさめ」)、「不安を解消するような情報を提供してもらった」または「不安を解消するような意見をもらった」者 (N=25, 図表中では「不安解消」) に対し、それらの反応によって、

それぞれ安心した度合いを四点尺度で訊ねた結果を図 3.3.3 に示す。

両者ともに圧倒的に「とても安心した」または「やや安心した」と回答する者が多く(91.7%, 84.0%)、「まったく安心しなかった」者はともに 0%であった。不安について呟いた結果、ポジティブな反応があって安心したという状況が、確かに存在していたことが判明した。

個人属性ごとの特徴を見ると、表 3.3.3 の通り、ほとんど有意差はないが、若年層の方がより強く安心しているようである。個人属性ごとの特徴を、よりシンプルに分析するため、四点尺度を二転尺度にしたものが表 3.3.4 である。これは、「とても安心した」または「やや安心した」と回答した者を「安心した」者とし、「あまり安心しなかった」または「まったく安心しなかった」と回答した者を「安心しなかった」者として、集計したものである。性別・年齢層・同居者の有無による有意差は見られなかったが、配偶者の有無による有意差が存在した。

やはり、配偶者がいない者の方が安心する割合が高いようである。また、有意差こそなかったが、同居者がいない者も同様の傾向が見られた。独りで寂しい者はネット越しの善意が身に染みるのではないだろうか。

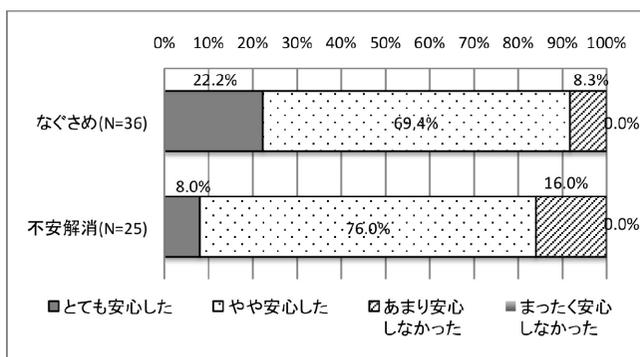


図 3.3.3 不安呟きに対する反応による安心

表 3.3.3 不安呟きに対する反応による安心[四点尺度]

(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	男性	女性	n.s.	年齢層					n.s.	配偶者		n.s.	同居者		n.s.
				10代	20代	30代	40代	50代		なし	あり		なし	あり	
なぐさめ	(N=14)	(N=22)		(N=6)	(N=9)	(N=10)	(N=5)	(N=6)		(N=22)	(N=14)		(N=13)	(N=23)	
とても安心した	14.3	27.3		16.7	33.3	20.0	20.0	16.7		22.7	21.4		15.4	26.1	
やや安心した	78.6	63.6		83.3	66.7	70.0	60.0	66.7		77.3	57.1		84.6	60.9	
あまり安心しなかった	7.1	9.1		0.0	0.0	10.0	20.0	16.7		0.0	21.4		0.0	13.0	
まったく安心しなかった	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	
不安解消	(N=13)	(N=12)		(N=4)	(N=6)	(N=7)	(N=3)	(N=5)		(N=16)	(N=9)	*	(N=6)	(N=19)	
とても安心した	7.7	8.3		25.0	16.7	0.0	0.0	0.0		12.5	0.0		0.0	10.5	
やや安心した	84.6	66.7		75.0	83.3	71.4	33.3	100.0		87.5	55.6		100.0	68.4	
あまり安心しなかった	7.7	25.0		0.0	0.0	28.6	66.7	0.0		0.0	44.4		0.0	21.1	
まったく安心しなかった	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

表 3.3.4 不安眩きに対する反応による安心[二点尺度]

(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	性別		n.s.	年齢層					n.s.	配偶者		同居者	
	男性	女性		10代	20代	30代	40代	50代		なし	あり	なし	あり
なぐさめ	(N=14)	(N=22)		(N=6)	(N=9)	(N=10)	(N=5)	(N=6)		(N=22)	(N=14) *	(N=13)	(N=23) n.s.
安心した	92.9	90.9		100.0	100.0	90.0	80.0	83.3		100.0	78.6	100.0	87.0
安心しなかった	7.1	9.1		0.0	0.0	10.0	20.0	16.7		0.0	21.4	0.0	13.0
不安解消	(N=13)	(N=12)		(N=4)	(N=6)	(N=7)	(N=3)	(N=5)		(N=16)	(N=9) **	(N=6)	(N=19) n.s.
安心した	92.3	75.0		100.0	100.0	71.4	33.3	100.0		100.0	55.6	100.0	78.9
安心しなかった	7.7	25.0		0.0	0.0	28.6	66.7	0.0		0.0	44.4	0.0	21.1

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

### 3.4 ハッシュタグに関する不安(問 14)

地震発生から1週間の間、情報収集をする際、ハッシュタグに関して感じた不安等について、複数回答可として訊ねた結果を図 3.4.1 に示す。なお、ハッシュタグについて、「ツイートをグループ化するためのハッシュタグ(＃で始まる短いキーワード)」という表記を行った。

予想に反して、「ハッシュタグとはなにか知らない」者(26.0%)や「ハッシュタグは使っていない」者(51.0%)の割合が多く(重複なしで、合わせてN=154)、ハッシュタグ利用者はさほど多くないことが判明した。

災害関連情報や生活情報の情報提供にあたり、各自が新しいハッシュタグを付けて情報発信を開始したことにより、混乱や不安が発生した状況を概観するための設問であったが、ハッシュタグに関して、安心や不安を感じた者は、少なくとも本調査においては少数であったようである。なお、新しいハッシュタグの乱立については、「乱立する一方だった」が最も多かった(9.5%)。表 3.4.1 の通り、性別・年齢層・配偶者の有無・同居者の有無による有意差は見られなかった。

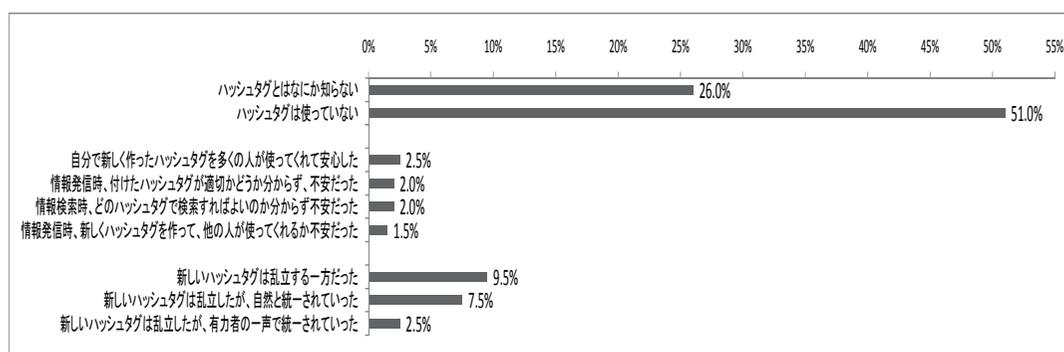


図 3.4.1 ハッシュタグに関する設問(N=200)

表 3.4.1 ハッシュタグに関する設問(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	男性 (N=100)	女性 (N=100)	年齢層					配偶者		同居者					
			10代 (N=24)	20代 (N=44)	30代 (N=44)	40代 (N=44)	50代 (N=44)	なし (N=118)	あり (N=82)	なし (N=47)	あり (N=153)				
ハッシュタグとはなにか知らない	23.0	29.0	n.s.	25.0	29.5	29.5	20.5	25.0	n.s.	22.0	31.7	n.s.	17.0	28.8	n.s.
ハッシュタグは使っていない	53.0	49.0	n.s.	54.2	47.7	43.2	61.4	50.0	n.s.	55.9	43.9	n.s.	55.3	49.7	n.s.
自分で新しく作ったハッシュタグを多くの人が使ってくれて安心した	3.0	2.0	n.s.	4.2	2.3	2.3	0.0	4.5	n.s.	1.7	3.7	n.s.	2.1	2.6	n.s.
情報発信時、付けたハッシュタグが適切かどうか分からず、不安だった	3.0	1.0	n.s.	0.0	2.3	4.5	2.3	0.0	n.s.	0.8	3.7	n.s.	2.1	2.0	n.s.
情報検索時、どのハッシュタグで検索すればよいのか分からず不安だった	1.0	3.0	n.s.	4.2	0.0	0.0	4.5	2.3	n.s.	1.7	2.4	n.s.	0.0	2.6	n.s.
情報発信時、新しくハッシュタグを作って、他の人が使ってくれるか不安だった	1.0	2.0	n.s.	0.0	2.3	2.3	2.3	0.0	n.s.	0.8	2.4	n.s.	2.1	1.3	n.s.
新しいハッシュタグは乱立する一方だった	9.0	10.0	n.s.	4.2	9.1	11.4	9.1	11.4	n.s.	10.2	8.5	n.s.	14.9	7.8	n.s.
新しいハッシュタグは乱立したが、自然と統一されていた	9.0	6.0	n.s.	12.5	9.1	6.8	2.3	9.1	n.s.	7.6	7.3	n.s.	6.4	7.8	n.s.
新しいハッシュタグは乱立したが、有力者の一声で統一されていた	1.0	4.0	n.s.	0.0	2.3	4.5	0.0	4.5	n.s.	2.5	2.4	n.s.	4.3	2.0	n.s.

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

### 3.5 リツイート基準とリツイートに関する不安(問 15, 16)

リツイートに伴う不安について調査するにあたり、どのような基準でリツイートをするかどうか判定しているのかについて、複数回答可として訊ねた結果を図 3.5.1 に示す。

リツイート理由の上位は「なんとなく」(28.0%)、「リツイートしようとしているつぶやきの内容が有用であると判断したから」(22.5%)、「自分に直接関係する事柄だから」(21.5%)であった。発言者や過去の呟き実績等の周辺情報ではなく、発言そのものを見て判断する者が多く、また、自分のためにリツイートを行っている者が多いようであった。一方、呟きの正確性について検証する者は少ないようである。「その他」の回答者はリツイートをしていないことを示す者が殆どであった(N=24)。

個人属性ごとの特徴を見ると、表 3.5.1 の通り、性別・配偶者の有無による有意差は見られない一方、「よく知っている人のつぶやきだから」について、同居者がいない者の方が多かった(21.3%, +12.8%)。また、「専門家の引用／リツイートだから」は50代に多かった(13.6%)。50代は専門家を信用しているのかとも考えられたが、「専門家のつぶやきだから」は6.8%と低いので、専門家を妄信している訳でもないようであった。

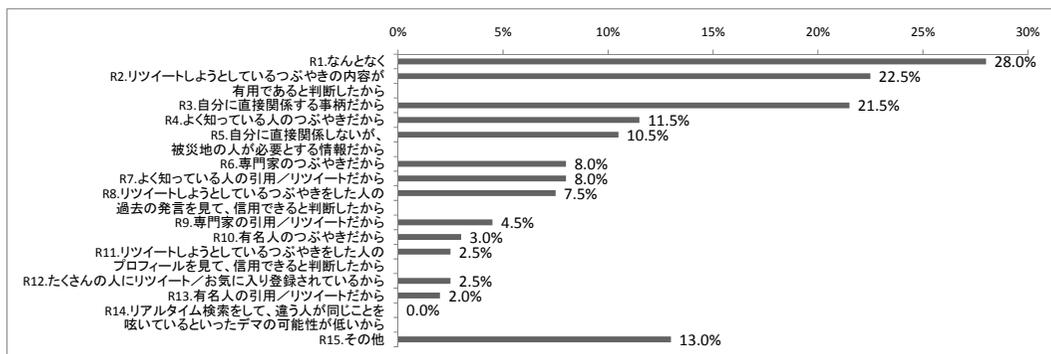


図 3.5.1 リツイート基準 (N=200)

表 3.5.1 リツイート基準(性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	男性 (N=100)	女性 (N=100)	10代 (N=24)	20代 (N=44)	30代 (N=44)	40代 (N=44)	50代 (N=44)	配偶者		同居者					
								なし (N=118)	あり (N=82)	なし (N=47)	あり (N=153)				
なんとなく	29.0	27.0	n.s.	29.2	31.8	25.0	27.3	n.s.	28.0	28.0	n.s.	25.5	28.8	n.s.	
リツイートしようとしているつぶやきの内容が有用であると判断したから	24.0	21.0	n.s.	20.8	25.0	22.7	18.2	25.0	n.s.	24.6	19.5	n.s.	31.9	19.6	n.s.
自分に直接関係する事柄だから	24.0	19.0	n.s.	25.0	25.0	20.5	15.9	22.7	n.s.	21.2	22.0	n.s.	19.1	22.2	n.s.
よく知っている人のつぶやきだから	12.0	11.0	n.s.	8.3	18.2	11.4	9.1	9.1	n.s.	13.6	8.5	n.s.	21.3	8.5	*
自分に直接関係しないが、被災地の人が必要とする情報だから	9.0	12.0	n.s.	16.7	11.4	6.8	6.8	13.6	n.s.	12.7	7.3	n.s.	12.8	9.8	n.s.
専門家のつぶやきだから	8.0	8.0	n.s.	12.5	6.8	13.6	2.3	6.8	n.s.	9.3	6.1	n.s.	10.6	7.2	n.s.
よく知っている人の引用/リツイートだから	8.0	8.0	n.s.	4.2	4.5	11.4	4.5	13.6	n.s.	5.1	12.2	n.s.	8.5	7.8	n.s.
リツイートしようとしているつぶやきをした人の過去の発言を見て、信用できると判断したから	6.0	9.0	n.s.	0.0	4.5	11.4	6.8	11.4	n.s.	7.6	7.3	n.s.	10.6	6.5	n.s.
専門家の引用/リツイートだから	5.0	4.0	n.s.	4.2	0.0	0.0	4.5	13.6	*	3.4	6.1	n.s.	8.5	3.3	n.s.
有名人のつぶやきだから	2.0	4.0	n.s.	0.0	2.3	2.3	4.5	4.5	n.s.	4.2	1.2	n.s.	4.3	2.6	n.s.
リツイートしようとしているつぶやきをした人のプロフィールを見て、信用できると判断したから	2.0	3.0	n.s.	0.0	2.3	2.3	2.3	4.5	n.s.	2.5	2.4	n.s.	6.4	1.3	n.s.
たくさんの人にリツイート/お気に入り登録されているから	3.0	2.0	n.s.	4.2	2.3	2.3	2.3	2.3	n.s.	3.4	1.2	n.s.	2.1	2.6	n.s.
有名人の引用/リツイートだから	3.0	1.0	n.s.	0.0	0.0	0.0	2.3	6.8	n.s.	0.8	3.7	n.s.	2.1	2.0	n.s.
リアルタイム検索をして、違う人が同じことを呟いているといたデマの可能性が低いから	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
その他	10.0	16.0	n.s.	12.5	11.4	18.2	15.9	6.8	n.s.	11.0	15.9	n.s.	4.3	15.7	*

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

次に、地震発生から1週間の間、震災に関するリツイートを行う際に感じた不安について、複数回答可として訊ねた結果を図3.5.2に示す。

この設問は、地震発生後、誤った情報をリツイートしたとして、有名人が糾弾される事件がツイッター上で散見されたことから、人々はリツイートの際に何らかの不安を感じているのではないかという想定のもと、作成されたものであるが、「不安は感じなかった」が圧倒的な1位(57.0%)であり、6割弱の者がリツイート時に不安を感じていない結果となった。

続く2位は「なんとなく不安だった」(18.5%)であり、多いのではないかと予想していた「自分が嘘の情報を拡散するかもしれないから、不安だった」(13.5%)は3位であった。

個人属性ごとの特徴を見ると、表3.5.2の通り、配偶者の有無による有意差は見られず、「なんとなく不安だった」は女性の方が有意に多かった(26.0%, +15.0%)。「自分が嘘の情報を拡散するかもしれないから、不安だった」について最も多い年齢層は10代(37.5%)であり、若年層が強く気にしていることが判明した。「無駄なことをしている気がするから、不安だった」については、同居者がいない者の方が有意に多かった(12.8%, +8.2%)。

リツイート時の不安とリツイート基準とのクロス集計を行い、有意な部分のみを抜粋したものが表3.5.3である。横軸のRから始まる記号は、図3.5.1の表記に準じたものである。「R2.リツイートしようとしているつぶやきの内容が有用であると判断したから」かつ「不安は感じなかった」は、調整残差=-1.8, p<0.0%であり、自分でリツイート候補の内容を吟味するような者は、不安を感じやすいのではないかと考えられる。

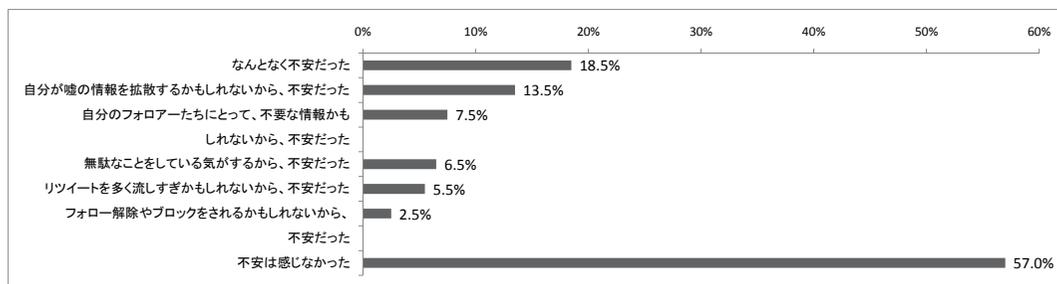


図 3.5.2 リツイート時の不安 (N=200)

表 3.5.2 リツイート時の不安 (性別・年齢層・配偶者有無・同居者有無別, 単位: %)

	性別		年齢層							配偶者		同居者	
	男性 (N=100)	女性 (N=100)	10代 (N=24)	20代 (N=44)	30代 (N=44)	40代 (N=44)	50代 (N=44)	なし (N=118)	あり (N=82)	なし (N=47)	あり (N=153)		
なんとなく不安だった	11.0	26.0 **	20.8	13.6	15.9	22.7	20.5 n.s.	14.4	24.4 n.s.	19.1	18.3 n.s.		
自分が嘘の情報を拡散するかもしれないから、不安だった	18.0	9.0 n.s.	37.5	18.2	4.5	11.4	6.8 **	16.9	8.5 n.s.	10.6	14.4 n.s.		
自分のフォロワーたちにとって、不要な情報かもしれないから、不安だった	10.0	5.0 n.s.	4.2	9.1	6.8	6.8	9.1 n.s.	6.8	8.5 n.s.	6.4	7.8 n.s.		
無駄なことをしている気がするから、不安だった	5.0	8.0 n.s.	4.2	6.8	2.3	4.5	13.6 n.s.	7.6	4.9 n.s.	12.8	4.6 *		
リツイートを多く流しすぎかもしれないから、不安だった	5.0	6.0 n.s.	4.2	9.1	2.3	6.8	4.5 n.s.	4.2	7.3 n.s.	8.5	4.6 n.s.		
フォロー解除やブロックをされるかもしれないから、不安だった	4.0	1.0 n.s.	4.2	0.0	2.3	4.5	2.3 n.s.	0.8	4.9 n.s.	0.0	3.3 n.s.		
不安は感じなかった	63.0	51.0 n.s.	50.0	54.5	65.9	61.4	50.0 n.s.	60.2	52.4 n.s.	55.3	57.5 n.s.		

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \*  $p<0.05$  \*\*  $p<0.01$  \*\*\*  $p<0.001$

表 3.5.3 リツイート時の不安とリツイート基準のクロス集計 (N=200, 単位: %)

	R1	R2	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R11	R15
自分が嘘の情報を拡散するかもしれないから、不安だった	1.0 *	5.0 n.s.	5.0 *	4.0 ***	4.0 ***	1.0 n.s.	2.0 n.s.	1.0 n.s.	0.0 n.s.	0.5 n.s.
自分のフォロワーたちにとって、不要な情報かもしれないから、不安だった	0.5 n.s.	4.0 **	3.0 n.s.	1.0 n.s.	1.0 n.s.	2.0 **	1.5 n.s.	0.5 n.s.	1.0 **	0.0 n.s.
無駄なことをしている気がするから、不安だった	1.5 n.s.	1.5 n.s.	1.5 n.s.	0.5 n.s.	1.5 *	0.5 n.s.	1.5 *	1.5 **	1.0 **	0.0 n.s.
リツイートを多く流しすぎかもしれないから、不安だった	0.5 n.s.	2.5 n.s.	1.0 n.s.	2.0 **	0.5 n.s.	2.0 ***	1.0 n.s.	0.5 n.s.	0.5 n.s.	0.0 n.s.
フォロー解除やブロックをされるかもしれないから、不安だった	0.5 n.s.	0.0 n.s.	1.0 n.s.	0.5 n.s.	0.5 n.s.	1.5 ***	0.0 n.s.	0.0 n.s.	0.0 n.s.	0.0 n.s.
不安は感じなかった	19.5 *	9.5 *	11.5 n.s.	2.5 **	1.5 **	1.5 **	2.5 n.s.	1.5 n.s.	0.5 n.s.	11.0 **

表注1  $\chi^2$ 乗検定の結果: \*  $p<0.05$  \*\*  $p<0.01$  \*\*\*  $p<0.001$

## 4. 震災をめぐるメディア・報道の評価・意見

### 4.1 ツイートによる他者への信頼度の変化(問 10)

震災に関する他者のツイートを見て、その人への信頼度が変化したかということを選択肢を提示したうえで、複数回答可で聞いた結果を図 4.1.1 に示す。いずれの選択肢も回答者は 3 割以下であり、突出した特徴は見られなかったが、全体的には、信頼度が上がったという人が、信頼度が下がったという人より多かった。信頼度が上がった理由としては、「参考になる意見を訊けた」「有用な情報を提供してくれた」「共感できる意見を聞いた」が比較的多かった。一方、信頼度が下がった理由としては「なんでもかんでもリツイートしまくる」がもっとも多かった。

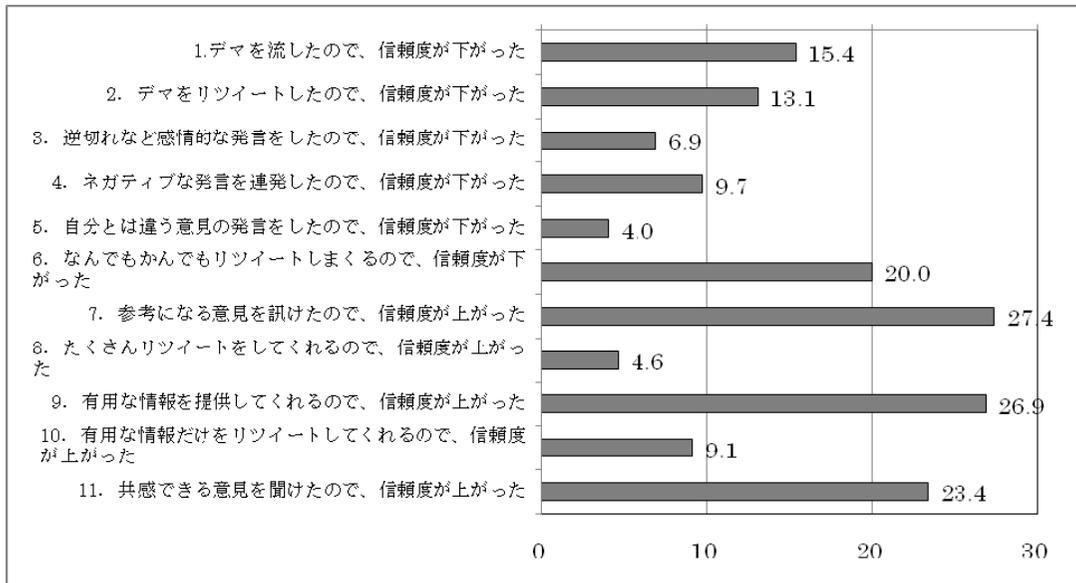


図 4.1.1 ツイートによる他者への信頼度の変化（複数回答可）[単位：%] (n=175, NA=25)

これらの信頼度変化について性別・年代・1人暮らしか否か・配偶者の有無でクロス集計を取り、 $\chi^2$ 検定を行った結果、1人暮らしについては5%水準で有意な差がみられなかったため、それ以外の結果を表 4.1.1 に示す。性別では、「デマをリツイートしたので、信頼度が下がった」のは男性に多く、「有用な情報を提供してくれるので、信頼度が上がった」のは女性に多かった。年代では、「デマを流したので、信頼度が下がった」「デマをリツイートしたので、信頼度が下がった」「逆切れなど感情的な発言をしたので、信頼度が下がった」「ネガティブな発言を連発したので、信頼度が下がった」のは、いずれも若い世代ほど多い傾向が見られた。配偶者の有無では、「逆切れなど感情的な発言をしたので、

信頼度が下がった」のは単身者に多く、「自分とは違う意見の発言をしたので、信頼度が下がった」のは、配偶者がいる人に多い傾向が見られた。

表 4.1.1 ツイートによる他者への信頼度の変化（性別・年代・配偶者有無別）[単位：％]

	男性 (n=89)	女性 (n=86)		10代 (n=21)	20代 (n=38)	30代 (n=37)	40代 (n=38)	50代 (n=41)		配偶者 無 (n=101)	配偶者 有 (n=74)	
1. デマを流したので、信頼度が下がった	19.1	11.6	n.s.	42.9	13.2	13.5	13.2	7.3	**	18.8	10.8	n.s.
2. デマをリツイートしたので、信頼度が下がった	18.0	8.1	*	33.3	7.9	18.9	2.6	12.2	*	15.8	9.5	n.s.
3. 逆切れなど感情的な発言をしたので、信頼度が下がった	9.0	4.7	n.s.	19.0	7.9	13.5	0.0	0.0	*	10.9	1.4	*
4. ネガティブな発言を連発したので、信頼度が下がった	10.1	9.3	n.s.	28.6	10.5	2.7	7.9	7.3	*	10.9	8.1	n.s.
5. 自分とは違う意見の発言をしたので、信頼度が下がった	3.4	4.7	n.s.	0.0	2.6	2.7	7.9	4.9	n.s.	1.0	8.1	*
6. なんでもかんでもリツイートしまくるので、信頼度が下がった	21.3	18.6	n.s.	28.6	15.8	18.9	21.1	19.5	n.s.	19.8	20.3	n.s.
7. 参考になる意見を訊けたので、信頼度が上がった	28.1	26.7	n.s.	28.6	31.6	27.0	28.9	22.0	n.s.	30.7	23.0	n.s.
8. たくさんリツイートをしてくれるので、信頼度が上がった	4.5	4.7	n.s.	4.8	2.6	5.4	7.9	2.4	n.s.	3.0	6.8	n.s.
9. 有用な情報を提供してくれるので、信頼度が上がった	18.0	36.0	*	33.3	18.4	27.0	26.3	31.7	n.s.	28.7	24.3	n.s.
10. 有用な情報だけをリツイートしてくれるので、信頼度が上がった	5.6	12.8	n.s.	4.8	10.5	8.1	7.9	12.2	n.s.	7.9	10.8	n.s.
11. 共感できる意見を聞けたので、信頼度が上がった	18.0	29.1	n.s.	23.8	34.2	10.8	26.3	22.0	n.s.	23.8	23.0	n.s.

#### 4.2 災害関連情報を取得できたメディア(問 19)

災害関連情報を入手したメディアをたずねたところ、最も多かったのはテレビとニュースサイトであった(図 4.2.1)。すなわちテレビでは 21.0%が「十分に得られた」として 58.5%が「やや得られた」とし、ニュースサイトでは 15.5%が「十分に得られた」、57.5%が「やや得られた」であった。その一方ツイッターは少なかった。最も多い「専門家のツイッター」でも「十分に得られた」人は 4.5%で「やや得られた」人は 21.0%だった。ツイッター利用者でもツイッターからの情報取得はあまり多くなかった。

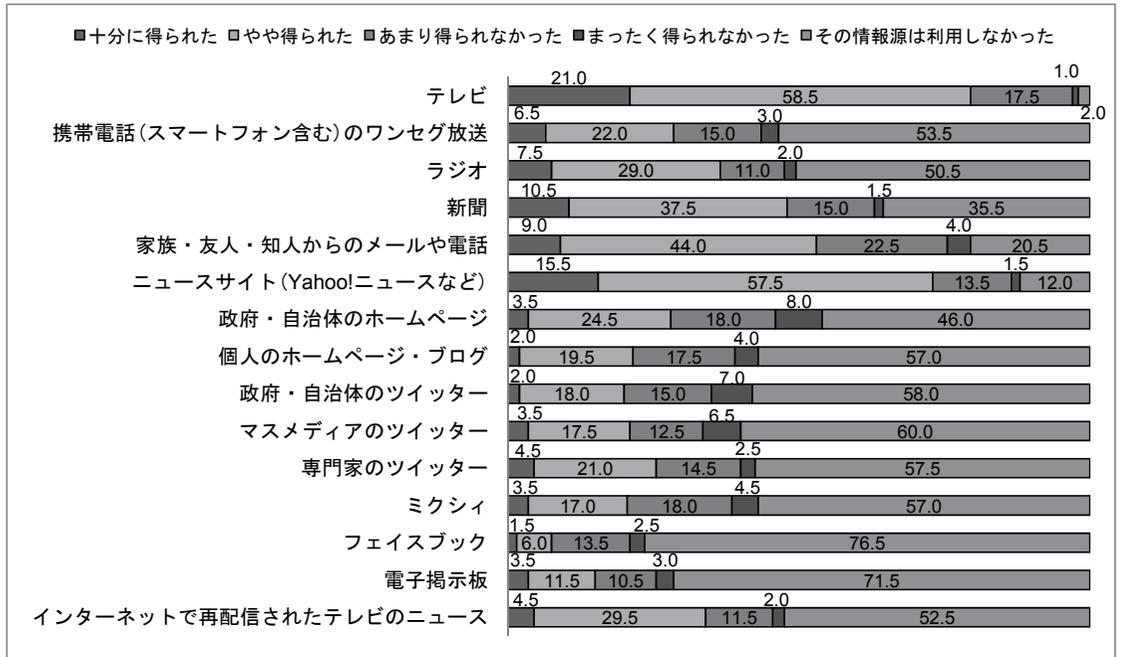


図 4.2.1 災害関連情報を入手したメディア

#### 4.3 災害関連情報で役に立ったメディア(問 20)

震災関連情報で役に立ったメディアをたずねたところ、テレビを挙げた人が 80.5%と最も多く、次いでニュースサイトが 54.5%だった。それに対してツイッターは少なく、最も多くの方が挙げた「専門家のツイッター」でも 21.0%であった。ツイッター利用者でもツイッターが役に立ったという人は一部にとどまっていることがわかった。

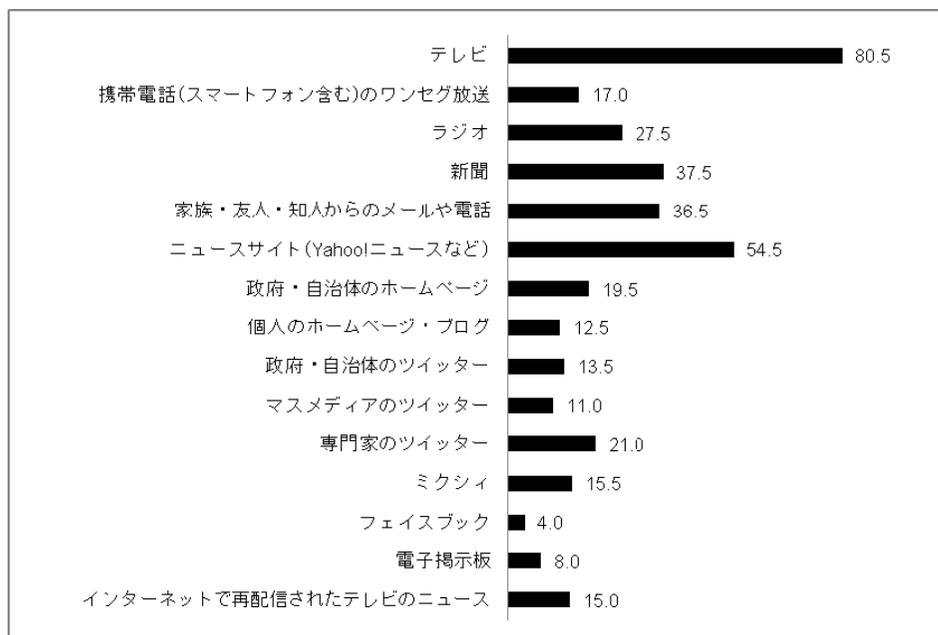


図 4.3.1 震災関連情報で役に立ったメディア

#### 4.4 原発関連のメディア情報への理解(問 21)

原発関連情報の理解度をメディア別にたずねたところ、最も理解度の高かったのはテレビであった。すなわちテレビでは 20%の人が「十分に理解できた」と答え、54.5%の人が「やや理解できた」と答えている。その一方ツイッターでは、理解度が高かった専門家のツイッターでも「十分理解できた」という人は 5.5%、「やや理解できた」という人は 18.5%にすぎなかった。情報を入手した人はテレビが 96%、専門家のツイッターが 36.5%であるから、情報入手者のうちで「十分理解できた」人の割合をみると、テレビが 20.8%、専門家のツイッターが 15.0%であり、テレビより専門家のツイッターの方が理解しやすかった、ということにはなかった。理解度でもツイッターはあまり良いメディアだったとはいえないようだ。

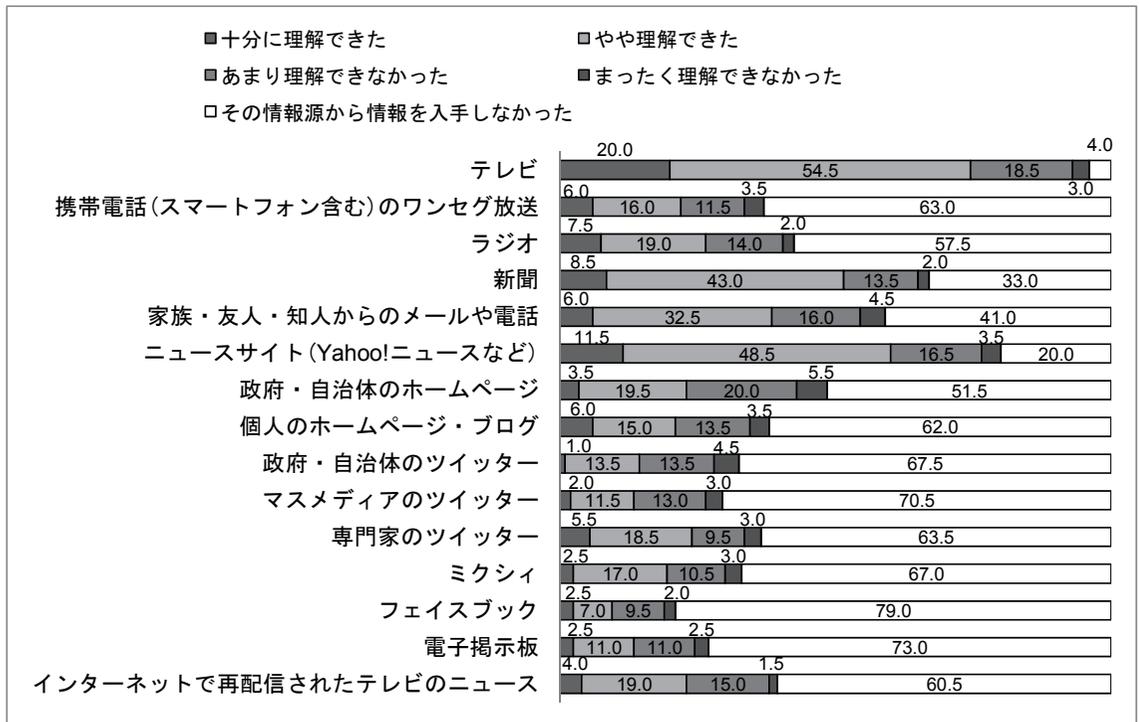


図 4.4.1 原発関連情報の理解度

#### 4.5 原発関連のメディア情報への信頼度(問 22)

原子力発電所や放射能に関する情報の内容をどの程度信用したかを聞いた結果を表 4.5.1 に示す。

表 4.5.1 原発等情報のメディア別の信用度 [単位：％] (n=200)

	とても信用 した	やや信用 した	あまり信用 しなかった	まったく信用 しなかった	その情報源 から情報を 入手しなかつ た
1. テレビ	9.5	54.0	26.5	6.0	4.0
2. 携帯電話(スマートフォン含む) のワンセグ放送	4.5	19.0	10.5	3.0	63.0
3. ラジオ	5.5	26.0	8.5	2.5	57.5
4. 新聞	7.5	38.0	18.5	3.0	33.0
5. 家族・友人・知人からのメール や電話	5.0	36.0	15.0	3.0	41.0
6. ニュースサイト(Yahoo!ニュース など)	6.0	51.5	20.5	2.0	20.0
7. 政府・自治体のホームページ	3.0	20.5	19.0	6.0	51.5
8. 個人のホームページ・ブログ	1.5	18.5	14.5	3.5	62.0
9. 政府・自治体のツイッター	0.5	12.5	14.5	5.0	67.5
10. マスメディアのツイッター	1.0	12.5	12.0	4.0	70.5
11. 専門家のツイッター	4.5	23.0	6.0	3.0	63.5
12. ミクシィ	1.5	12.5	15.5	3.5	67.0
13. フェイスブック	1.5	8.0	9.0	2.5	79.0
14. 電子掲示板	1.5	10.0	11.5	4.0	73.0
15. インターネットで再配信された テレビのニュース	2.0	22.0	13.0	2.5	60.5

この表から、「とても信用した」と「やや信用した」の割合を合計し、その数値によつて降順に情報源を並び替えたのが図 4.5.1 である。情報源によっては、利用されなかったものもあるため、利用した人を母数とした信用比率も横棒グラフの下段に示した。全体の信用度合いは、首位から順に「テレビ」、「ニュースサイト」、「新聞」、「メールや電話」、「ラジオ」であったが、利用した人の信用度合いを見ると、首位が「専門家のツイッター」、僅差で 2 位が「ラジオ」、以降「ニュースサイト」「メールや電話」「新聞」の順となっており、様相が大きく異なっていた。全体で見ると、まだツイッターの利用割合は低いものの、利用している人のなかでは専門家のツイッターがマスメディアよりも信

用される存在となっていたことが読み取れる。

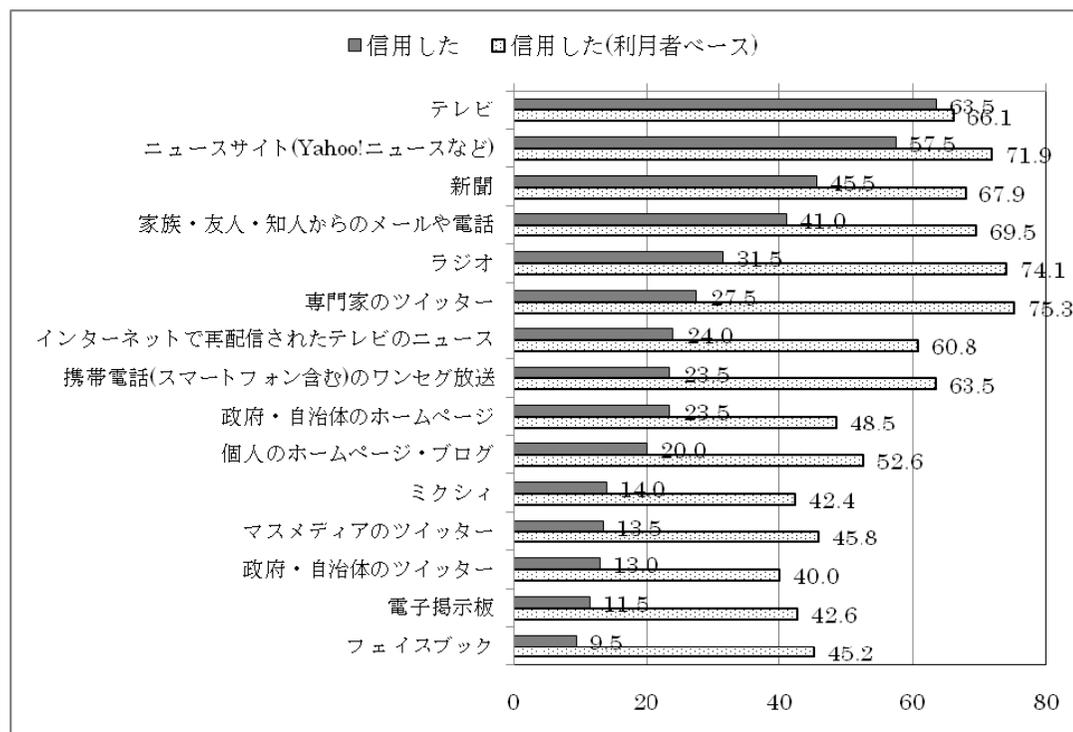


図 4.5.1 原発等情報を信用した割合 [単位: %] (n=200)

次に各メディアを「信用した」「信用しなかった」「利用しなかった」軸と、性別・年代でクロス集計を取った結果、「家族・友人・知人からのメールや電話」については、女性の方が信用する傾向が見られた(女性:51.0%, 男性:31.0%,  $\chi^2(2)=8.444, p<0.05$ )。年代についての統計的有意差は見られなかった。

## 5. 調査票と単純集計

## Twitter 利用に対する調査

【対象：全員】

問1. あなたはツイッターを平日一日平均どのくらい利用していますか (N=200)

- (ア) 他人のツイートを読む (38.7) 回
- (イ) 自分でツイートを書く (4.3) 回
- (ウ) リツイートする (1.5) 回

--

【対象：全員】

問2. あなたがツイッターを利用し始めたのはいつ頃ですか SA (N=200)

- 1. 2011年3月11日より前 87.5%
- 2. 2011年3月11日から3月20日までの間 12.5%
- 3. 2011年3月21日以降 0.0%

--

【対象：問2=1or3】

問2-SQ1. あなたがツイッターを利用し始めた時期を教えてください (N=200)

西暦(2010)年 (6.7)月頃

--

【対象：問2=1】

問2-SQ2. 地震発生から1週間のあいだ、ツイッターを利用する回数は変わりましたか。あてはまるものを1つだけお選びください。SA (N=175)

- 1. 2011年3月11日より前と変わらない 62.9%
- 2. 2011年3月11日より前と比べて、利用回数が増えた 32.0%
- 3. 2011年3月11日より前と比べて、利用回数が減った 5.1%

--

【対象：全員】

問3. あなたは今後もツイッターを利用し続けようと思っていますか？あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

- 1. 当分の間、利用し続ける 80.5%
- 2. そろそろ利用をやめようと思っている 7.0%

3. わからない 12.5%

--

【対象：全員】

問4. 地震発生後、使いたいときにいつでも使える状態にあると最も安心するものは以下のうちどれですか。あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

1. 携帯電話(スマートフォン含む)のメール 32.0%
2. パソコンのメール 7.0%
3. 携帯電話(スマートフォン含む)でインターネット 15.0%
4. パソコンでインターネット 15.5%
5. 固定電話の通話 3.5%
6. 携帯電話(スマートフォン含む)の通話 23.0%
7. インターネット電話 1.5%
8. 上記いずれの手段でも安心は得られない 2.5%

--

【対象：問 4=3-4】

問 4-SQ. 次のインターネットサービスのうち、使いたいときにいつでも使える状態にあると最も安心するものは以下のうちどれですか。あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=61)

1. ニュースサイト 37.7%
2. ツイッターなどのミニブログ 37.7%
3. ミクシィなどの SNS 9.8%
4. 電子掲示板 8.2%
5. ブログ 0.0%
6. USTREAM などのリアルタイム動画配信サイト 3.3%
7. その他インターネットサービス (FA) 3.3%

--

【対象：問 2=1-2】

問5. 地震発生から1週間のあいだ、ツイッターを次のような目的で利用しましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=179, 無回答=21)

1. 友人や家族の安否確認 41.9%
2. 自分の安否情報の公開 20.7%

3. 発生した地震や津波などの情報の取得 40.2%
  4. 原発や放射能に関する情報の取得 34.6%
  5. 生活情報の取得 41.3%
  6. 計画停電や電力供給に関する情報の取得 39.7%
  7. 震災や原発・放射能に関する他の人の意見の取得 26.3%
  8. 被災地支援に関する情報の取得 21.2%
  9. 交通情報に関する情報の取得 30.7%
  10. 現地レポートとしての情報公開 11.7%
  11. 震災や原発・放射能に関する自分の意見の表明 11.7%
  12. 公式リツイートによる情報の伝搬 17.9%
  13. 非公式リツイートによる情報の伝搬 7.3%
  14. 議論 5.0%
- ※無回答可 10.5%

--

【対象：問 2=1-2】

- 問6. 地震発生から1週間のあいだ、前問のようにツイッターを利用することによって、次のようなことを思いましたか。あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)
1. 友人や家族の安否を確認できたから、安心した 23.0%
  2. 必要な情報を取得できたから、安心した 32.5%
  3. 自分と同じ考えの人がいることがわかったから、安心した 6.0%
  4. 自分だけが持っている情報を発信することにより、他人に貢献できたから、安心した 2.5%
  5. リツイートで情報を伝搬することにより、他人に貢献できたから、安心した 1.5%
  6. 有意義な議論ができたから、安心した 1.0%
  7. ツイートをすることで、ストレスを解消できたから、安心した 1.0%
  8. なんとなく安心した 10.5%
  9. 安心はしなかった 22.0%

--

【対象：問 2=1-2】

- 問7. あなたが地震発生前にフォローしていた相手は、どのような人ですか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)
1. 公的機関 20.0%

2. 報道機関 18.5%
3. 企業 25.5%
4. 家族 6.0%
5. 友人・知人 49.5%
6. タレント 28.5%
7. 政治家 12.5%
8. その他有名人 26.0%
9. その他一般の人 23.5%
10. フォローしていた人はいない 13.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問8. 地震発生後、あなたはどのような人を、新たにフォローしましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. ツイッターを使うようになった友人や家族 23.0%
2. 公的機関 19.5%
3. 全国的な報道機関 12.5%
4. 被災地のローカル報道機関 7.5%
5. 専門家 11.0%
6. タレント 13.5%
7. 政治家 7.0%
8. その他有名人 11.5%
9. 現地の情報を伝えてくれる人 9.0%
10. ためになると思われる情報をたくさんリツイートしてくれる人 11.5%
11. ためになると思われる意見を出してくれる人 15.5%
12. 新たにフォローした人はいない 41.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問9. 地震発生後、あなたはどのような人をフォロー解除しましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. 公的機関 3.0%
2. 報道機関 2.0%
3. 企業 4.5%

4. 専門家 0.5%
5. 友人・知人 3.0%
6. タレント 6.5%
7. 政治家 1.5%
8. その他有名人 3.0%
9. その他一般の人 6.0%
10. フォロー解除した人はいない 80.0%

--

【対象：問 9=1-9】

問 9-SQ. あなたがフォロー解除した理由はなんですか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=40)

1. 正しく伝えてくれないから 17.5%
2. ツイートが多すぎるから 45.0%
3. リツイートが多すぎるから 22.5%
4. 感情的なツイートをするから 15.0%
5. 納得できない意見をツイートするから 25.0%
6. 不快なツイートをするから 15.0%
7. 不快なリツイートが多いから 20.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問10. あなたは、震災に関する他の人のツイートをみて、次のようなことはありましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=175, 無回答=25)

1. デマを流したので、信頼度が下がった 15.4%
2. デマをリツイートしたので、信頼度が下がった 13.1%
3. 逆切れなど感情的な発言をしたので、信頼度が下がった 6.9%
4. ネガティブな発言を連発したので、信頼度が下がった 9.7%
5. 自分とは違う意見の発言をしたので、信頼度が下がった 4.0%
6. なんでもかんでもリツイートしまくるので、信頼度が下がった 20.0%
7. 参考になる意見を訊けたので、信頼度が上がった 27.4%
8. たくさんリツイートしてくれるので、信頼度が上がった 4.6%
9. 有用な情報を提供してくれるので、信頼度が上がった 26.9%
10. 有用な情報だけをリツイートしてくれるので、信頼度が上がった 9.1%

11. 共感できる意見を聞けたので、信頼度が上がった 23.4%

※無回答可 12.5%

--

【対象：問 2=1-2】

問11. あなたは、地震発生前、ツイッターでどのようなことをつぶやいていましたか？あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. 自分の近況 42.5%
2. その時々自分が感じたこと 35.0%
3. まわりの様子の報告 17.0%
4. 自分の知識の提供 8.0%
5. 自分の意見の表明 14.0%
6. ニュースの引用 9.0%
7. 他人の意見の引用 5.0%
8. その他 (FA) 1.5%
9. 地震前にはツイッターを使い始めていない 12.5%
10. 自分ではつぶやいていない 26.5%

--

【対象：問 2=1-2】

問12. あなたは、地震発生から1週間のあいだ、ツイッターで次のようなことに対する不安をつぶやきましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. 知人・家族の安否が不明なこと 6.0%
2. 余震や津波が恐ろしいこと 16.5%
3. 生活物資が足りないこと 11.5%
4. 電力不足や計画停電に関すること 17.0%
5. 原子力発電所や放射能に関すること 13.0%
6. 孤立感 2.5%
7. 将来に関すること 7.5%
8. 何が起きているかよくわからないこと 9.5%
9. 不安はつぶやいていない 62.5%

--

【対象：問 12=1-8】

[問 12 で「不安をつぶやいた」と回答した方にお聞きします]

問 12-SQ1. 不安に関するつぶやきに対して、何か反応はありましたか？あてはまるものをすべてお選びください MA (N=75)

1. 家族・友人・知人がなぐさめてくれた 34.7%
2. 見知らぬ人がなぐさめてくれた 16.0%
3. 不安を解消するような情報を提供してもらった 25.3%
4. 不安を解消するような意見をもらった 18.7%
5. 否定的な発言をされた 5.3%
6. 引用・リツイートされて、晒し者にされた 0.0%
7. 反応はなかった 36.0%

--

【対象：問 12SQ1=1-2】

[問 12-SQ1 で「家族・友人・知人がなぐさめてくれた」「見知らぬ人がなぐさめてくれた」と回答した方にお聞きします]

問 12-SQ2. 自分の不安をなぐさめてもらったことで、どのくらい安心しましたか？あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=36)

1. とても安心した 22.2%
2. やや安心した 69.4%
3. あまり安心しなかった 8.3%
4. まったく安心しなかった 0.0%

--

【対象：問 12SQ1=3-4】

[問 12-SQ1 で「不安を解消するような情報を提供してもらった」「不安を解消するような意見をもらった」と回答した方にお聞きします]

問 12-SQ3. 不安を解消するような発言をしてもらったことで、どのくらい安心しましたか？あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=25)

1. とても安心した 8.0%
2. やや安心した 76.0%
3. あまり安心しなかった 16.0%
4. まったく安心しなかった 0.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問13. あなたが(ア)地震や津波の情報、(イ)原発や放射能に関する情報をツイッターで読んでいて、もっとも役に立ったツイートは、誰が書いたものでしたか (N=200)

(ア) 地震や津波の情報

1. ( FA )が書いたツイート 22.0%
2. この情報は見ていない 78.0%

(イ) 原発や放射能に関する情報

1. ( FA )が書いたツイート 21.5%
2. この情報は見ていない 78.5%

--

【対象：問 2=1-2】

問14. 地震発生から1週間のあいだ、情報収集をする際、ツイートをグループ化するためのハッシュタグ(#で始まる短いキーワード)に関して、以下のようなことはありましたか？  
あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. ハッシュタグとはなにか知らない 26.0%
2. ハッシュタグは使っていない 51.0%
3. 情報発信時、新しくハッシュタグを作って、他の人が使ってくれるか不安だった  
1.5%
4. 情報発信時、付けたハッシュタグが適切かどうか分からず、不安だった 2.0%
5. 自分で新しく作ったハッシュタグを多くの人が使ってくれて安心した 2.5%
6. 情報検索時、どのハッシュタグで検索すればよいのか分からず不安だった 2.0%
7. 新しいハッシュタグは乱立したが、自然と統一されていった 7.5%
8. 新しいハッシュタグは乱立したが、有力者の一声で統一されていった 2.5%
9. 新しいハッシュタグは乱立する一方だった 9.5%

--

【対象：問 2=1-2】

問15. 地震発生から1週間のあいだ、震災に関するリツイートを行う際に、次のような不安を感じましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. 自分が嘘の情報を拡散するかもしれないから、不安だった 13.5%
2. 自分のフォロワーたちにとって、不要な情報かもしれないから、不安だった  
7.5%
3. リツイートを多く流しすぎかもしれないから、不安だった 5.5%

4. フォロー解除やブロックをされるかもしれないから、不安だった 2.5%
5. 無駄なことをしている気がするから、不安だった 6.5%
6. なんとなく不安だった 18.5%
7. 不安は感じなかった 57.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問16. あなたは、どのような基準でリツイートするつぶやきを選びましたか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

1. 自分に直接関係する事柄だから 21.5%
2. 自分に直接関係しないが、被災地の人が必要とする情報だから 10.5%
3. よく知っている人のつぶやきだから 11.5%
4. 専門家のつぶやきだから 8.0%
5. 有名人のつぶやきだから 3.0%
6. よく知っている人の引用／リツイートだから 8.0%
7. 専門家の引用／リツイートだから 4.5%
8. 有名人の引用／リツイートだから 2.0%
9. リツイートしようとしているつぶやきの内容が有用であると判断したから 22.5%
10. リツイートしようとしているつぶやきをした人の過去の発言を見て、信用できると判断したから 7.5%
11. リツイートしようとしているつぶやきをした人のプロフィールを見て、信用できると判断したから 2.5%
12. たくさんの人にリツイート／お気に入り登録されているから 2.5%
13. リアルタイム検索をして、違う人が同じことを呟いているといったデマの可能性が低いから 0.0%
14. なんとなく 28.0%
15. その他 (FA) 13.0%

--

【対象：問 2=1-2】

問17. 地震発生から1週間のあいだ、あなたは、次のような情報を見かけたことがありますか。見かけた場所と併せて、あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

	テレビ・ラジオで見聞きました	ネットニュースサイトで見た	ツイッターなどのミニブログで見た	ミクシィなどのSNSで見た	電子掲示板で見た	メールで見た	友人・知人から直接聞いた	見聞きしていない
(ア) 地震で社内のサーバールームのラックが倒壊し、怪我をして動けないので、誰か助けてほしい	8.0%	6.5%	12.0%	1.5%	1.5%	0.0%	1.0%	77.5%
(イ) コンビナート火災により有害物質を含んだ雨が降る	15.0%	10.5%	24.5%	6.5%	3.5%	13.0%	10.0%	47.0%
(ウ) 放射能対策として、ヨードを含んだ昆布などを食べた方がよい	18.5%	16.5%	22.0%	7.0%	3.0%	4.5%	7.0%	45.5%
(エ) 被災地で犯罪行為が多発している	27.0%	19.5%	23.5%	5.5%	4.5%	1.5%	5.0%	39.5%
(オ) 避難所で餓死者が出ている	12.5%	11.5%	13.0%	3.0%	3.0%	0.5%	1.5%	68.5%
(カ) 自衛隊が救援物資の支援を呼び掛けている	22.0%	11.0%	13.0%	3.0%	1.0%	1.5%	1.5%	64.0%
(キ) 外国人の窃盗団が横行している	14.5%	9.5%	11.0%	3.0%	2.5%	1.0%	3.0%	68.0%
(ク) 東大入学予定者が合格を取り消された	8.5%	4.5%	3.0%	3.0%	1.0%	0.0%	1.0%	86.0%
(ケ) 埼玉県の水道水に異物が混入した	12.0%	7.0%	5.0%	3.5%	0.5%	0.0%	1.5%	79.5%

--

【対象：問 17(ア)-(ケ)いずれかが 1-7】

[問 17の全ての項目について「見聞きしていない」と回答した方以外にお聞きします]

問 17-SQ1. 前問の情報のうち、明らかに事実ではないとわかったものはありますか SA (N=155)

1. はい 65.8%
2. いいえ 34.2%

--

【対象：問 17SQ=1】

[問 17-SQ1 で「はい」と回答した方にお聞きします]

問 17-SQ2. 前問の情報が事実ではないことに気付いたきっかけはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=102)

1. その情報に触れる前に、それが事実ではないという証拠を知っていたから 38.2%
2. 自分がログインしたツイッター上で、それが事実ではないという発言が流れてきたから 27.5%
3. ツイッターを検索して、それが事実ではないという発言を見つけたから 13.7%
4. ツイッター以外の場所で、それが事実ではないという証拠を見つけたから 32.4%
5. ツイッターを検索して、複数のユーザがまったく同じ内容のつぶやきをしていて、それがイタズラだとわかったから 6.9%
6. その情報の発信者が他の人になりすましていて、それがイタズラだとわかったから 3.9%
7. その他 (FA) 12.7%

--

【対象：問 2=1-2】

問18. あなたは、ツイッターで事実とは違う情報を広めてしまいましたか？あてはまるものをひとつだけお選びください SA (N=200)

1. はい 5.5%
2. いいえ 94.5%

--

【対象：問 18=1】

[問 18 で「はい」と回答した方にお聞きします]

問 18-SQ. あなたが広めてしまった情報が事実とは違うと判明したとき、あなたはどのような行動をとりましたか？あてはまるものをすべてお選びください MA (N=11)

1. リツイートをやめた 45.5%
2. フォローする発言をつぶやいた 45.5%
3. デマの出所を確認した 36.4%

4. デマの出所を糾弾した 9.1%
5. デマをリツイートした人を糾弾した 0.0%
6. 感情的なツイートをした 0.0%
7. 何もなかった 9.1%

--

【対象：全員】

問19. あなたは地震から1週間のあいだ、以下の情報源で災害関連の欲しい情報を得られましたか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

	十分に得られた	やや得られた	か あ ま り 得 ら れ な か っ た	な ま っ た く 得 ら れ な か っ た	用 し な か っ た 利 害
1. テレビ	21.0%	58.5%	17.5%	1.0%	2.0%
2. 携帯電話(スマートフォン含む)のワンセグ放送	6.5%	22.0%	15.0%	3.0%	53.5%
3. ラジオ	7.5%	29.0%	11.0%	2.0%	50.5%
4. 新聞	10.5%	37.5%	15.0%	1.5%	35.5%
5. 家族・友人・知人からのメールや電話	9.0%	44.0%	22.5%	4.0%	20.5%
6. ニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	15.5%	57.5%	13.5%	1.5%	12.0%
7. 政府・自治体のホームページ	3.5%	24.5%	18.0%	8.0%	46.0%
8. 個人のホームページ・ブログ	2.0%	19.5%	17.5%	4.0%	57.0%
9. 政府・自治体のツイッター	2.0%	18.0%	15.0%	7.0%	58.0%
10. マスメディアのツイッター	3.5%	17.5%	12.5%	6.5%	60.0%
11. 専門家のツイッター	4.5%	21.0%	14.5%	2.5%	57.5%
12. ミクシィ	3.5%	17.0%	18.0%	4.5%	57.0%
13. フェイスブック	1.5%	6.0%	13.5%	2.5%	76.5%
14. 電子掲示板	3.5%	11.5%	10.5%	3.0%	71.5%
15. インターネットで再配信されたテレビのニュース	4.5%	29.5%	11.5%	2.0%	52.5%

--

【対象：問19(1)-(15)のいずれかが1-4】

問20. A. あなたが災害関連の情報を入手した際に、役に立ったと思う情報源はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください MA (N=200)

B. 最も役に立ったと思う情報源をひとつだけお選びください SA (N=200)

	a. 役に立ったと思う情報源 (いくつでも)	b. 最も役に立ったと思う情報源 (ひとつだけ)
1. テレビ	80.5%	47.5%
2. 携帯電話(スマートフォン含む)のワンセグ放送	17.0%	4.0%
3. ラジオ	27.5%	6.0%
4. 新聞	37.5%	3.0%
5. 家族・友人・知人からのメールや電話	36.5%	5.5%
6. ニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	54.5%	13.5%
7. 政府・自治体のホームページ	19.5%	1.5%
8. 個人のホームページ・ブログ	12.5%	3.0%
9. 政府・自治体のツイッター	13.5%	0.5%
10. マスメディアのツイッター	11.0%	0.5%
11. 専門家のツイッター	21.0%	6.5%
12. ミクシィ	15.5%	2.0%
13. フェイスブック	4.0%	0.5%
14. 電子掲示板	8.0%	2.5%
15. インターネットで再配信されたテレビのニュース	15.0%	3.5%

※無回答可 0.0%

--

【対象：全員】

問21. あなたは、得られた原子力発電所や放射能に関する情報の内容をそれぞれのくらい理解できましたか。以下のそれぞれについて、あてはまるものに1つだけお選びください  
SA (N=200)

	十分に理解	やや理解でき	たまたま理解	まったく理解	まったく理解	入かその情情報源
1. テレビ	20.0%	54.5%	18.5%	3.0%	4.0%	
2. 携帯電話(スマートフォン含む)のワンセグ放送	6.0%	16.0%	11.5%	3.5%	63.0%	
3. ラジオ	7.5%	19.0%	14.0%	2.0%	57.5%	

4. 新聞	8.5%	43.0%	13.5%	2.0%	33.0%
5. 家族・友人・知人からのメールや電話	6.0%	32.5%	16.0%	4.5%	41.0%
6. ニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	11.5%	48.5%	16.5%	3.5%	20.0%
7. 政府・自治体のホームページ	3.5%	19.5%	20.0%	5.5%	51.5%
8. 個人のホームページ・ブログ	6.0%	15.0%	13.5%	3.5%	62.0%
9. 政府・自治体のツイッター	1.0%	13.5%	13.5%	4.5%	67.5%
10. マスメディアのツイッター	2.0%	11.5%	13.0%	3.0%	70.5%
11. 専門家のツイッター	5.5%	18.5%	9.5%	3.0%	63.5%
12. ミクシィ	2.5%	17.0%	10.5%	3.0%	67.0%
13. フェイスブック	2.5%	7.0%	9.5%	2.0%	79.0%
14. 電子掲示板	2.5%	11.0%	11.0%	2.5%	73.0%
15. インターネットで再配信されたテレビのニュース	4.0%	19.0%	15.0%	1.5%	60.5%

--

【対象：問 21(1)-(15)のいずれかが 1-4】

問22. あなたは、得られた原子力発電所や放射能に関する情報の内容をそれぞれのどのくらい信用しましたか。あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

	し と た て も 信 用	た や や 信 用 し	し あ ま り 信 用 な か つ た	た 用 ま し つ な か く つ 信	入 か そ の 情 報 源 の 情 報 を 手 し な か る
1. テレビ	9.5%	54.0%	26.5%	6.0%	4.0%
2. 携帯電話(スマートフォン含む)のワンセグ放送	4.5%	19.0%	10.5%	3.0%	63.0%
3. ラジオ	5.5%	26.0%	8.5%	2.5%	57.5%
4. 新聞	7.5%	38.0%	18.5%	3.0%	33.0%
5. 家族・友人・知人からのメールや電話	5.0%	36.0%	15.0%	3.0%	41.0%
6. ニュースサイト(Yahoo!ニュースなど)	6.0%	51.5%	20.5%	2.0%	20.0%
7. 政府・自治体のホームページ	3.0%	20.5%	19.0%	6.0%	51.5%
8. 個人のホームページ・ブログ	1.5%	18.5%	14.5%	3.5%	62.0%
9. 政府・自治体のツイッター	0.5%	12.5%	14.5%	5.0%	67.5%
10. マスメディアのツイッター	1.0%	12.5%	12.0%	4.0%	70.5%
11. 専門家のツイッター	4.5%	23.0%	6.0%	3.0%	63.5%
12. ミクシィ	1.5%	12.5%	15.5%	3.5%	67.0%
13. フェイスブック	1.5%	8.0%	9.0%	2.5%	79.0%
14. 電子掲示板	1.5%	10.0%	11.5%	4.0%	73.0%
15. インターネットで再配信されたテレビのニュース	2.0%	22.0%	13.0%	2.5%	60.5%

■■フェイスシート【対象：全員】■■

F1 あなたの性別を教えてください SA (N=200)

1. 男性 50.0%
2. 女性 50.0%

F2 あなたの年齢はおいくつですか FA (N=200)

( 36.9 ) 歳

F3 あなたはご結婚されていますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

1. 未婚 54.5%
2. 既婚(配偶者あり) 41.0%
3. 既婚(配偶者と離別・死別) 4.5%

F4 同居されているかたの人数をお知らせください。(あなたご自身も含みます) FA (N=200)

自分を含めて合 

2.9
-----

 計 人

F5 あなたのお住まいは次のうちどれにあたりますか。次の中から、あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

1. 一戸建て(持ち家) 36.0%
2. 一戸建て(借家) 4.0%
3. アパート・マンション(持ち家) 21.5%
4. アパート・マンション(賃貸) 36.0%
5. その他 2.5%

F6 あなたが最後に在籍、または現在在籍中の学校は次のどれですか。次の中から、あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

1. 中学校(旧制尋常小学校、高等小学校を含む) 1.0%
2. 高校(旧制中学校、実業学校、師範学校、女学校を含む) 22.0%
3. 短大・高専(旧制高校を含む) 18.0%
4. 大学 53.0%
5. 大学院 6.0%

F7 あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたはふだんどのような仕事をなさっていますか。次のうち、あてはまるものを1つだけお選びください SA (N=200)

1. フルタイム(正社員・正職員)で働いている 44.5%
2. フルタイム(派遣社員・派遣職員)で働いている 5.5%
3. パートタイム、アルバイト 12.0%
4. 専業主婦 9.0%
5. 学生・生徒 20.5%
6. 無職 4.0%
7. その他(FA) 4.5%

以上